

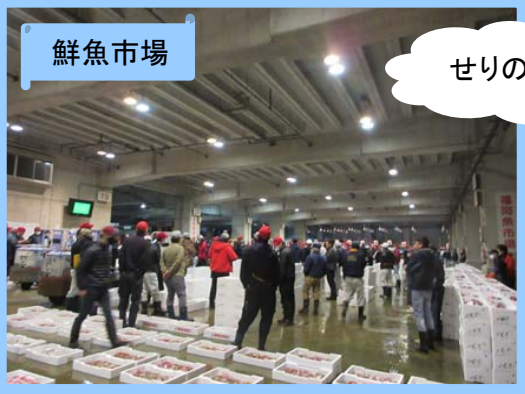
食品衛生検査所業務概要

市場を守るチーム食検活動報告書

令和元年度

福岡市保健福祉局食品衛生検査所

写真で見る食品衛生検査所のしごと



鮮魚市場

せりの様子



青果市場

鮮魚市場系のしごと



巡回監視・収去



市民感謝デー特別監視



食品衛生月間行事



HACCP導入支援
～7S講座～



市場内施設ふきとり検査



食品衛生法改正説明会

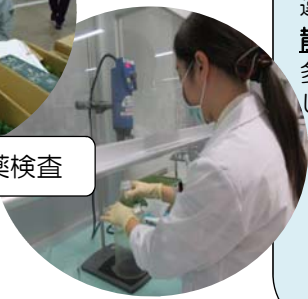
青果市場系のしごと



市場内の巡回監視



青果物の残留農薬検査



おしらせの工夫

出荷前検査を実施！

違反の原因として、**農薬散布器具の洗浄不足**が多いため、写真等を掲載して注意喚起

ホース内



HACCP導入支援



7S講座



ベジフル感謝祭

農薬の不安にこたえる
検査所ツアー



科学的なものの見方を
育てる理科実験

目 次

本 編	
I	食品衛生検査所の主要業務・・・・・・・・ 1
II	鮮魚市場・青果市場監視活動状況・・・・・・・・ 3
III	検査結果の概要
1	鮮魚市場・・・・・・・・ 5
2	青果市場・・・・・・・・ 7
IV	鮮魚市場の検査結果の詳細
1	収去検査
	検体別検体数及び検査結果
①	海水魚（生食用鮮魚介類を除く）・・・・・・・・ 9
②	生食用鮮魚介類・・・・・・・・ 9
③	生カキ（生食用）・・・・・・・・ 10
④	貝類（生食用鮮魚介類の貝類，生カキ（生食用）を除く）・・・・・・・・ 10
⑤	魚のミンチ（魚をミンチし，加塩等行っていないもの）・・・・・・・・ 10
2	施設の監視指導に係る食品等検査
(1)	水，氷及び施設ふきとり検査の検体数及び検査項目数・・・・・・・・ 11
①	水（浄化海水）及び氷（砕氷）
②	施設のふきとり等
(2)	買取検査の検体別検体数及び検査結果・・・・・・・・ 11
3	調査研究等
(1)	相談・・・・・・・・ 12
(2)	分析法の検討・・・・・・・・ 12
4	依頼検査（保健所等）
	検体別検体数及び検査項目数・・・・・・・・ 12
V	青果市場の検査結果の詳細
1	収去検査
(1)	農薬有効成分別検査件数・・・・・・・・ 13
(2)	残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況
①	国内産野菜・・・・・・・・ 15
②	国内産果実・・・・・・・・ 16
③	輸入野菜・・・・・・・・ 17
④	輸入果実・・・・・・・・ 17
(3)	食品添加物（防ばい剤）検査の食品別検体数及び検出状況・・・・・・・・ 17
2	農産物の安全・安心推進事業における市内産出荷前検査・・・・・・・・ 18
	（残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況）
3	青果市場ブランド推進施策における市外産出荷前検査・・・・・・・・ 18
	（残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況）
4	調査研究等（分析法の検討）・・・・・・・・ 18

VI	違反食品等の発見状況	
1	食品衛生法違反	
	(1) 収去検査	・・・ 19
	(2) 巡回監視	・・・ 19
2	食品表示法違反	
	巡回監視	・・・ 19
3	農薬取締法違反(適用外使用) 疑い	
	出荷前検査	・・・ 19
4	不適魚等の発見状況	
	巡回監視	・・・ 20
VII	苦情・相談及び魚種鑑別	・・・ 21
VIII	衛生講習会・施設見学会	
1	衛生講習会	・・・ 23
2	監視員等研修	・・・ 23
3	施設見学会	・・・ 24
4	食品衛生月間行事	・・・ 24
5	市民開放型イベント	・・・ 24
IX	HACCP導入支援	・・・ 25
資料編		
I	食品衛生検査所の概要	
1	沿革	・・・ 27
2	施設	・・・ 28
3	職員構成	・・・ 28
4	保健福祉局組織機構	・・・ 28
5	勤務・監視体制	・・・ 28
II	市場の概要	
1	鮮魚・青果市場の概況	・・・ 29
2	品目別取扱高	
	(1) 年度別 水産物部	・・・ 30
	(2) 年度別 青果部	・・・ 31
III	調査研究及び事例報告	
1	一覧(平成7年度～令和元年度)	・・・ 32
2	意外におもしろかったHACCP導入支援 そのはじまり ～市場HACCPのトップランナーを目指した取組み～	・・・ 35
3	過去10年間の残留農薬検出状況 ～市場を流通する青果物の残留農薬の傾向～	・・・ 39
IV	福岡市食品衛生成分規格指導基準	・・・ 59
V	検査方法と定量下限	
1	細菌検査・理化学検査	・・・ 61
2	理化学検査(残留農薬検査)	・・・ 63

本 編

I 食品衛生検査所の主要業務

食品衛生検査所は、市場の監視のため、鮮魚市場、青果市場内に各々施設を設け、職員を配置して市場の安全確保に努めている。

【食品衛生監視，検査】

係	重点的に実施した事業
鮮魚市場係	<ol style="list-style-type: none"> 1 鮮魚市場内の巡回指導及びサンプリング (全開場日：年間 278 日，毎日 8:00～，毎週 0:00～，必要に応じて 6:00～) 有毒魚介類の排除，食品等の衛生的取扱い，食品表示の確認，場内使用水の検査 2 市民感謝デー特別監視（温度管理，表示など） 当日開場前の施設温度確認及び表示チェック 3 鮮魚介類の規格検査など <ul style="list-style-type: none"> ・生食用魚介類の細菌検査，養殖魚の動物用医薬品検査等 ・調査・研究（鮮魚市場におけるアニサキス実態調査ほか） 4 食品取扱施設の立ち入り，ふき取り検査等による衛生指導 卸売及び仲卸売施設の衛生検査
青果市場係	<ol style="list-style-type: none"> 1 青果市場内の巡回指導 (全開場日：年間 256 日，毎日：8:00～，月 2 回程度：6:00～) 有毒植物，カビ・腐敗のある青果物の排除，食品等の衛生的取扱い指導及び食品表示の確認 2 青果物の検査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市場内青果物の収去検査の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・残留農薬，防ばい剤（食品添加物） ・市場内で流通量が多く，かつ，生食用に供されるもの，過去の法違反及び農薬の検出頻度の多いものなどに重点をおいて実施 ・残留農薬検査では，1 検体につき最大 211 項目 (2) 農薬検査項目数を増やすための調査・検討 <ul style="list-style-type: none"> ・次の目的で，新たな前処理法（STQ 法）導入を検討した結果，最大 240 項目の検査が可能となった。 <目的> <ol style="list-style-type: none"> ①生産地で使用頻度の高い農薬の検査対象項目数を増やす（カバー率の向上） ②前処理工程の機械化

【事業者支援】

係	重点的に実施した事業
鮮魚市場係	<p>1 HACCP導入支援 卸業者等経営陣への働きかけ，市場内作業従事者の機運醸成などの視点から，段階的な導入支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法改正説明会（全1回，58名） ・HACCP勉強会（全4回，延べ93名） <p>2 フグ等有毒魚講習会の実施 フグ鑑別，専門家（大学）による講演会（全1回，40名）</p>
青果市場係	<p>1 生産者の農薬適正使用の推進 (1) 出荷前残留農薬検査（市内産・市外産）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市農産物の安全・安心推進事業，青果市場ブランド推進施策の取組に協力し，年間計85検体を実施 ・防除記録に記載のない農薬検出時には，原因調査を依頼 <p>(2) 出荷前検査成績書の様式の工夫 生産者が使用した農薬の検出状況一覧，過去の法違反事例をもとに，農薬散布器具の洗浄不足，農薬容器のラベル確認をコラムで掲載</p> <p>2 HACCP導入支援 卸業者等経営陣への働きかけ，市場内作業従事者の機運醸成などの視点から，段階的な導入支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卸業者のHACCP会議での導入支援（全13回，延べ207名） ・7S講座※（全7回，延べ232名） <p>※実験を取り入れた体験型衛生講習会</p>

【広報，リスクコミュニケーションほか】

係	重点的に実施した事業
鮮魚市場係	<p>1 検査所のホームページや業務概要など広報に関すること</p> <p>(1) 検査所のホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルの検討 <p>(2) 業務概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載内容の見直し ・リニューアルした業務概要へのアンケート調査の実施
青果市場係	<p>2 検査所における食の安全確保に向けた取組説明</p> <p>(1) 施設見学・視察への対応（年19回，延べ442名）</p> <p>(2) ベジフルスタジアムの市民開放型イベント（ベジフル感謝祭）への対応 子ども向け理科実験，バックヤードツアーでの青果市場・検査所の取組説明（年11回，参加者251名）</p>

II 鮮魚市場・青果市場監視活動状況

業 種 別		市 場 合 計								
		対象 施設数	監視 施設数	違反等の状況						
				法令違反			その他			
				口頭 指導	文書 指導	その他 の措置	口頭 指導	文書 指導	その他 の措置	
合 計		153	37,231	22	-	2	-	-	-	
食品衛生法による許可施設	計	81	17,682	21	-	-	-	-	-	
	飲食店	一食・レストラン	-	-	-	-	-	-	-	-
		仕出し・弁当	1	-	-	-	-	-	-	-
		旅館を除くその他	-	-	-	-	-	-	-	-
	菓子製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	魚介類販売業	64	16,067	19	-	-	-	-	-	
	魚介類せり売業	2	646	2	-	-	-	-	-	
	魚肉ねり製品業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	食品の冷凍・冷蔵	6	323	-	-	-	-	-	-	
	喫茶店営業	4	-	-	-	-	-	-	-	
	乳類販売業	2	-	-	-	-	-	-	-	
	食肉販売業	1	323	-	-	-	-	-	-	
そうざい製造業	-	-	-	-	-	-	-	-		
氷雪製造業	1	323	-	-	-	-	-	-		
食品衛生法による許可不要施設	計 (県条例許可施設を含む)	72	19,549	1	-	2	-	-	-	
	食品製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	野菜・果実販売業	35	8,960	-	-	2	-	-	-	
	そうざい販売業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	菓子販売業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	上記以外 食品販売業	37	10,589	1	-	-	-	-	-	
	添加物の販売業	-	-	-	-	-	-	-	-	
	器具・容器包装 おもちゃ製造 販売業	-	-	-	-	-	-	-	-	
給食施設	-	-	-	-	-	-	-	-		
県条例 許可施設	食品販売業(再掲)	33	10,333	-	-	-	-	-	-	

鮮魚市場								青果市場							
対象施設数	監視施設数	違反等の状況						対象施設数	監視施設数	違反等の状況					
		法令違反			その他					法令違反			その他		
		口頭指導	文書指導	その他の措置	口頭指導	文書指導	その他の措置			口頭指導	文書指導	その他の措置	口頭指導	文書指導	その他の措置
117	28,015	22	-	-	-	-	-	36	9,216	-	-	2	-	-	-
81	17,682	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
64	16,067	19 ※1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	646	2 ※1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	323	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	323	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	323	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	10,333	-	-	-	-	-	-	36	9,216	-	-	2	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	35	8,960	-	-	2 ※2	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	10,333	1 ※1	-	-	-	-	-	1	256	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33	10,333	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

違反等内訳

※1 衛生的取扱 22件 ※2 成分規格 2件

Ⅲ 検査結果の概要

1 鮮魚市場

<検査総数>

区分	検体数	延べ検査項目数	細菌検査							
			検体数	項目数	細菌数	大腸菌群	E.coli最確数	腸炎ビブリオ最確数	腸炎ビブリオ直接法	ビブリオ属菌
総計	557	2,585	228	825	228	213	6	46	189	143

<収去検査>

計	75 (0)	480 (0)	29 (0)	116 (0)	29 (0)	23	6 (0)	29 (0)	29	—
海水魚 ※1	25 (0)	343 (0)	—	—	—	—	—	—	—	—
生食用 鮮魚介類	23 (0)	92 (0)	23 (0)	92 (0)	23	23	—	23 (0)	23	—
生カキ (生食用)	6 (0)	24 (0)	6 (0)	24 (0)	6 (0)	—	6 (0)	6	6	—
貝類 ※2	17 (0)	17 (0)	—	—	—	—	—	—	—	—
魚のミンチ ※3	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—

<施設の監視指導に係る食品等検査>

計	395	870	173	648	173	173	—	8	151	143
水及び氷	188	210	22	44	22	22	—	—	—	—
施設の ふきとり等	151	604	151	604	151	151	—	8	151	143
海水魚 (買取検査)	56	56	—	—	—	—	—	—	—	—

<調査研究等>

計	71	1,183	17	25	17	8	—	—	—	—
相談	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—
分析法の検討	48	1,152	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の 調査研究	21	29	17	25	17	8	—	—	—	—

<依頼検査(保健所等)>

計	16	52	9	36	9	9	—	9	9	—
---	----	----	---	----	---	---	---	---	---	---

() 内は食品衛生法違反の件数

※1 生食用鮮魚介類を除く

※2 生食用鮮魚介類の貝類, 生カキ(生食用)を除く

※3 魚をミンチし, 加塩等行っていないもの

※4 理化学検査のその他はアニサキス, クドアの検査と, 同定等の苦情相談対応を含む

理化学検査							
検体数	項目数	動物用 医薬品	ヒスタミ ン	貝毒等	フグ毒	残留塩素	その他 ※4
338	1,760	1,490	10	20	13	166	61

46 (0)	364 (0)	338 (0)	9	17 (0)	-	-	-
25 (0)	343 (0)	338 (0)	5	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
17 (0)	17 (0)	-	-	17 (0)	-	-	-
4	4	-	4	-	-	-	-

222	222	-	-	-	-	166	56
166	166	-	-	-	-	166	-
-	-	-	-	-	-	-	-
56	56	-	-	-	-	-	56

54	1,158	1,152	1	-	-	-	5
2	2	-	-	-	-	-	2
48	1,152	1,152	-	-	-	-	-
4	4	-	1	-	-	-	3

16	16	-	-	3	13	-	-
----	----	---	---	---	----	---	---

2 青果市場

<検査総数>

区 分	理 化 学 検 査						
	検体数	延べ検査 項目数	残留農薬		防ばい剤		
			検体数	項目数	検体数※	項目数	
総 計	901	208,507	901	208,421	13	86	
国 産	小 計	248	52,259	248	52,259	—	—
	野 菜	210	44,285	210	44,285	—	—
	果 実	38	7,974	38	7,974	—	—
輸 入	小 計	50	10,520	50	10,434	13	86
	野 菜	29	6,112	29	6,112	—	—
	果 実	21	4,408	21	4,322	13	86
調査研究等等合計		603	145,728	603	145,728	—	—

※防ばい剤については、残留農薬検査の検体の一部で重複して実施している。

<収去検査>

収 去 検 査 合 計		213 (2)	44,855 (2)	213 (2)	44,769 (2)	13 (0)	86 (0)
国 産	小 計	163 (2)	34,335 (2)	163 (2)	34,335 (2)	—	—
	野 菜	133 (2)	28,038 (2)	133 (2)	28,038 (2)	—	—
	果 実	30 (0)	6,297 (0)	30 (0)	6,297 (0)	—	—
輸 入	小 計	50 (0)	10,520 (0)	50 (0)	10,434 (0)	13 (0)	86 (0)
	野 菜	29 (0)	6,112 (0)	29 (0)	6,112 (0)	—	—
	果 実	21 (0)	4,408 (0)	21 (0)	4,322 (0)	13 (0)	86 (0)

()内は食品衛生法違反の件数

※防ばい剤については、残留農薬検査の検体の一部で重複して実施している。

<出荷前検査>

そ の 他 の 検 査 合 計		85	17,924	85	17,924	—	—
農産物の安全・安心 推進事業 (市内産出荷前検査)	小 計	74	15,604	74	15,604	—	—
	野 菜	67	14,137	67	14,137	—	—
	果 実	7	1,467	7	1,467	—	—
青果市場ブランド 推進施策 (市外産出荷前検査)	小 計	11	2,320	11	2,320	—	—
	野 菜	10	2,110	10	2,110	—	—
	果 実	1	210	1	210	—	—

<調査研究等>

調査研究等等合計		603	145,728	603	145,728	—	—
分析法の検討		603	145,728	603	145,728	—	—

IV 鮮魚市場の検査結果の詳細

1 収去検査

検体別検体数及び検査結果

① 海水魚（生食用鮮魚介類を除く）

検体名		産地	検体数	延べ 検査 項目数	検査項目			
					動物用 医薬品		ヒスタミン	
					検査 項目数	成分 規格 違反	検査数	検出数
養殖魚	マダイ	国産	12	236	234	0	2	0
	カンパチ	国産	8	74	72	0	2	0
	ヒラメ	国産	1	8	8	0	—	—
		韓国	3	24	24	0	—	—
天然魚	イワシ	国産	1	1	—	—	1	0
計			25	343	338	0	5	0

② 生食用鮮魚介類

検体名		産地	検体数	延べ 検査 項目数	検査項目							
					細菌数		大腸菌群		腸炎 ビブリオ 最確数		腸炎 ビブリオ 直接法	
					検査数	指導 基準 不適合	検査数	陽性数	検査数	成分 規格 違反	検査数	検出数
生ウニ	国産	8	32	8	0	8	2	8	0	8	0	
	メキシコ	3	12	3	0	3	1	3	0	3	0	
	中国	1	4	1	0	1	0	1	0	1	0	
タイラギ貝柱	韓国	5	20	5	0	5	0	5	0	5	0	
タイラギヒモ	韓国	5	20	5	0	5	2	5	0	5	0	
アコヤ貝柱	国産	1	4	1	0	1	0	1	0	1	0	
計			23	92	23	0	23	5	23	0	23	0

③ 生カキ（生食用）

検体名	産地	検体数	延べ 検査 項目数	検 査 項 目							
				細菌数		E. coli 最確数		腸炎 ビブリオ 最確数		腸炎 ビブリオ 直接法	
				検査数	成分 規格 違反	検査数	成分 規格 違反	検査数	成分 規格 違反	検査数	検出数
生カキ	国産	6	24	6	0	6	0	6	0	6	0
計		6	24	6	0	6	0	6	0	6	0

④ 貝類（生食用鮮魚介類の貝類，生カキ（生食用）を除く）

検体名	産地	検体数	延べ 検査 項目数	検 査 項 目	
				麻痺性貝毒	
				検査数	規制値 超過
アカガイ	中国	11	11	11	0
	韓国	2	2	2	0
アサリ	国産	1	1	1	0
ハマグリ	国産	2	2	2	0
	中国	1	1	1	0
計		17	17	17	0

⑤ 魚のミンチ（魚をミンチし，加塩等行っていないもの）

検体名	産地	検体数	延べ 検査 項目数	検 査 項 目	
				ヒスタミン	
				検査数	検出数
イワシミンチ	国産	2	2	2	0
エソミンチ	国産	1	1	1	0
ハモミンチ	国産	1	1	1	0
計		4	4	4	0

2 施設の監視指導に係る食品等検査

(1) 水、氷及び施設ふきとり検査の検体数及び検査項目数

① 水（浄化海水）及び氷（砕氷）

検体名		検体数	延べ検査項目数	検査項目		
				細菌数	大腸菌群	残留塩素
浄化海水	卸売場	138	138	—	—	138
	仲卸売場	28	28	—	—	28
氷		21	42	21	21	—
氷製造に使用する滅菌海水		1	2	1	1	—
計		188	210	22	22	166

② 施設のふきとり等

測定施設		ふきとり箇所数	延べ検査項目数	検査項目				
				細菌数	大腸菌群	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	腸炎ビブリオ直接法
卸売場	せり売場	16	64	16	16	16	—	16
	魚介類販売業許可施設	14	56	14	14	14	—	14
仲卸売場	各店舗	113	452	113	113	113	—	113
	製品検査	8	32	8	8	—	8	8
計		151	604	151	151	143	8	151

※測定施設内のまな板、冷蔵庫等から採取

(2) 買取検査の検体別検体数及び検査結果

検体名	産地	検体数	検査項目数	検査項目
				アニサキス
サバ	国産	56	56	56
計		56	56	56

3 調査研究等

(1) 相談

種類	検体数	延べ検査項目数	検査項目						
			細菌数	大腸菌群	腸炎ビブリオ直接法	ヒスタミン	魚種鑑別	異物	VBN
苦情相談	2	2	0	0	0	0	2	0	0
計	2	2	0	0	0	0	2	0	0

※詳細については p 21 に記載

(2) 分析法の検討

種類	検体数	延べ検査項目数	検査項目
			動物用医薬品
養殖魚	48	1,152	1,152
計	48	1,152	1,152

4 依頼検査（保健所等）

検体別検体数及び検査項目数

種類	検体数	延べ検査項目数	検査項目						
			細菌数	大腸菌群	腸炎ビブリオ最確数	腸炎ビブリオ直接法	魚種鑑別	フグ毒	麻痺性貝毒
アサリ	1	1	—	—	—	—	—	—	1
カキ	2	2	—	—	—	—	—	—	2
フグ	13	49	9	9	9	9	—	13	—
計	16	52	9	9	9	9	0	13	3

V 青果市場の検査結果の詳細

1 収去検査

(1) 農薬有効成分別検査件数

農薬有効成分名	検査件数			農薬有効成分名	検査件数		
	国産 青果物	輸入 青果物	計		国産 青果物	輸入 青果物	計
EPN	163	50	213	クロルフェンビンホス	163	50	213
XMC	163	50	213	クロルブファム	163	50	213
アクリナトリン	163	50	213	クロルプロファム	163	50	213
アザコナゾール	163	50	213	クロロクスロン	163	50	213
アセタミプリド	160	40	200	クロロベンジレート	163	50	213
アゾキシストロビン	163	40	203	シアゾファミド	163	50	213
アトラジン	163	50	213	シアナジン	163	50	213
アトリン	163	50	213	シアノホス	163	50	213
アラクロール	163	50	213	ジウロン	163	50	213
アラマイト	163	50	213	ジエトフェンカルブ	163	50	213
イサゾホス	163	50	213	シクロエート	163	50	213
イソキサチオン	163	50	213	ジクロシメット	163	50	213
イソフェンホス	163	50	213	ジクロフェンチオン	163	50	213
イソプロチオラン	163	50	213	ジノテフラン	163	50	213
イプロバリカルブ	163	50	213	シハロトリン	163	50	213
イプロベンホス	163	50	213	ジフェナミド	163	50	213
イマザリル	163	37	200	ジフェノコナゾール	163	50	213
イミダクロプリド	163	50	213	シフルトリン	163	50	213
インダノファン	163	50	213	シフルフェナミド	163	50	213
インドキサカルブ	163	50	213	ジフルフェニカン	163	50	213
ウニコナゾールP	163	50	213	ジフルベンズロン	157	40	197
エスプロカルブ	163	50	213	シプロコナゾール	163	50	213
エチオン	163	50	213	シプロジニル	152	49	201
エディフェンホス	163	50	213	シペルメトリン	163	50	213
エトキサゾール	163	50	213	シマジン	163	50	213
エトフェンプロックス	163	50	213	シメコナゾール	163	50	213
エトプロホス	163	50	213	ジメタメトリン	163	50	213
エトリムホス	163	50	213	ジメチピン	163	50	213
エボキシコナゾール	163	50	213	ジメテナミド	163	50	213
エンドスルファン	163	50	213	ジメトエート	163	50	213
オキサジアゾン	163	50	213	シメトリン	163	50	213
オキサジキシル	163	50	213	ジメビペレート	163	50	213
オキサジクロメホン	163	50	213	スピロキサミン	163	50	213
オキサミル	163	50	213	スピロジクロフェン	163	50	213
オキシカルボキシ	163	50	213	スルプロホス	163	50	213
カズサホス	163	50	213	ターバシル	163	50	213
カフェンストロール	163	50	213	ダイアジノン	163	50	213
カルフェントラゾンエチル	163	50	213	ダイアレート	163	50	213
カルプロパミド	163	50	213	チアクロプリド	163	50	213
キナルホス	163	50	213	チアベンダゾール	163	37	200
キノキシフェン	163	50	213	チアメトキサム	163	50	213
キノクラミン	163	50	213	チオベンカルブ	163	50	213
クミルロン	163	50	213	チフルザミド	163	50	213
クレソキシムメチル	163	50	213	デスメディファム	163	50	213
クロチアニジン	163	50	213	テトラコナゾール	163	50	213
クロマゾン	163	50	213	テトラジホス	163	50	213
クロマフェノジド	157	40	197	テニルクロール	163	50	213
クロメプロップ	163	50	213	テブコナゾール	163	50	213
クロリダゾン	163	50	213	テブチウロン	163	50	213
クロルタールジメチル	163	50	213	テブフェノジド	162	48	210
クロルピリホス	163	50	213	テブフェンピラド	163	50	213
クロルピリホスメチル	163	50	213	テフルトリン	163	50	213
クロルフェナピル	163	50	213	デルタメトリン及びトラロメトリン	163	50	213

農薬有効成分名	検査件数		
	国産 青果物	輸入 青果物	計
テルブトリン	163	50	213
トリアジメノール	163	50	213
トリアジメホン	163	50	213
トリアレート	163	50	213
トリシクラゾール	163	50	213
トリブホス	163	50	213
トリフルミゾール	163	50	213
トリフルムロン	163	50	213
トリフルラリン	163	50	213
トリフロキシストロビン	163	50	213
トルクロホスメチル	163	50	213
トルフェンピラド	163	50	213
ナプロパミド	163	50	213
ニトタールイソプロピル	163	50	213
ノバルロン	163	50	213
パクロブトラゾール	163	50	213
パラチオン	163	50	213
パラチオンメチル	163	50	213
ハルフェンプロックス	163	50	213
ビテルタノール	163	50	213
ビフェントリン	163	50	213
ピラクロストロビン	163	50	213
ピラクロホス	163	50	213
ピラゾリネート	163	50	213
ピラフルフェンエチル	152	49	201
ピリダフェンチオン	163	50	213
ピリダベン	163	50	213
ピリフタリド	163	50	213
ピリプチカルブ	163	50	213
ピリプロキシフェン	163	50	213
ピリミカーブ	163	50	213
ピリミノバックメチル	163	50	213
ピリミホスメチル	163	50	213
ピリメタニル	160	40	200
ピロキロン	163	50	213
ピンクロゾリン	163	50	213
フィプロニル	163	47	210
フェナリモル	163	50	213
フェニトロチオン	163	50	213
フェノキシカルブ	163	50	213
フェノチオカルブ	163	50	213
フェンスルホチオン	163	50	213
フェントエート	163	50	213
フェンバレレート	163	50	213
フェンピロキシメート	163	50	213
フェンブコナゾール	163	50	213
フェンプロバトリン	163	50	213
フェンプロピモルフ	163	50	213
フェンメディファム	163	50	213
ブタクロール	163	50	213
ブタフェナシル	163	50	213
ブタミホス	163	50	213
ブピリメート	163	50	213

農薬有効成分名	検査件数		
	国産 青果物	輸入 青果物	計
ブプロフェジン	163	50	213
フラムプロップメチル	163	50	213
フルアクリピリム	163	50	213
フルキンコナゾール	163	50	213
フルジオキソニル	152	37	189
フルシトリネート	163	50	213
フルシラゾール	163	50	213
フルトラニル	163	50	213
フルバリネート	163	50	213
フルフェノクスロン	163	50	213
フルミオキサジン	163	50	213
プロシミドン	163	50	213
プロチオホス	163	50	213
プロバジン	163	50	213
プロピコナゾール	163	40	203
プロピザミド	163	50	213
プロフェノホス	163	50	213
プロマシル	163	50	213
プロメトリン	163	50	213
プロモプロピレート	163	50	213
プロモホス	163	50	213
ヘキサコナゾール	163	50	213
ヘキサジノン	163	50	213
ヘキサフルムロン	163	50	213
ヘキシチアゾクス	163	50	213
ベノキサコール	163	50	213
ペルメトリン	163	50	213
ペンコナゾール	163	50	213
ベンゾフェナップ	163	50	213
ベンダイオカルブ	163	50	213
ペンディメタリン	163	50	213
ベンフルラリン	163	50	213
ホサロン	163	50	213
ボスカリド	163	50	213
ホスチアゼート	163	50	213
ホスメット	163	50	213
ホレート	163	50	213
マラチオン	163	50	213
ミクロブタニル	163	50	213
メタバズチアズロン	163	50	213
メタラキシル及びメフェノキサム	163	50	213
メチダチオン	163	50	213
メキシクロール	163	50	213
メキシフェンジド	157	40	197
メミノストロビン	163	50	213
メラクロール	163	50	213
メフェナセット	163	50	213
メブロニル	163	50	213
モノリニューロン	163	50	213
リニューロン	163	50	213
ルフェスロン	163	50	213
レナシル	163	50	213
211種類	34,335	10,434	44,769

(2) 残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況

① 国内産野菜

食品分類 [作物例]	検体数	検出 検体数	最大検査 項目数	延べ検査 項目数	検出農薬有効成分(件数)
アスパラガス	2	1	211	422	クロルフェナピル
いちご	3	2	211	633	アクリトナリン, ヘキシチアゾクス
えだまめ	2	2	211	422	ジノテフラン(2), ヘキシチアゾクス
おくら	4	2	211	844	インドキサカルブ, ジノテフラン(2), フェンハレレート
かぶ類の根	2	0	211	422	
かぶ類の葉	2	0	211	422	
かぼちゃ [かぼちゃ, ブッキーニ]	3	1	211	633	チアクロプリド
カリフラワー	1	0	211	211	
かんしょ	3	0	209	627	
キャベツ	4	0	211	844	
きゅうり	5	4	211	1,055	クロルフェナピル(2), ジノテフラン(4), トルフェンピラト, フェンピロキシメート, ププロフェジン, プロシミドン, ホスカリト, メタラキシル
きょうな [みずな]	3	2	211	633	クロチアニジン, ジノテフラン(2), チアチキサム,
ごぼう	1	0	210	210	
こまつな	4	4	211	844	アセタミプリド, ジノテフラン(3), チアチキサム, フルフェノクスロン(2)
さといも類	2	0	209	418	
しゅんぎく	3	3	211	633	ジノテフラン(2), フルフェノクスロン(2), プロピサミド(2)
しょうが	1	0	210	210	
しろり	1	0	211	211	
すいか	2	0	211	422	
セロリ	4	4	211	844	アゾキシストロビン(2), クレソキシメチル, クロチアニジン, クロルフェナピル(4), ジノテフラン, ジフェノコナゾール(2), チアチキサム(2), トリフルミゾール, トルフェンピラト(2), フルフェノクスロン
その他のあぶらな科野菜 [かつおな]	2	2	211	422	クレソキシメチル, シアゾファミド(2), シマジン, ルフェスロン
その他のうり科野菜 [ゴーヤ, とうがん]	3	1	211	633	フルフェノクスロン, ヘルメリン
その他のなす科野菜 [ししとう]	1	1	211	211	クレソキシメチル
その他のハーブ [赤しそ]	1	0	211	211	
その他の野菜 [れんこん]	2	0	211	422	
だいこん類の根	3	1	211	633	メタラキシル
たまねぎ	3	0	211	633	
チンゲンサイ	4	3	211	844	アゾキシストロビン, クロチアニジン(3), クロルフェナピル, シアゾファミド, ジノテフラン(2), シペルメリン, チアチキサム(2)
トマト [トマト, ミニトマト]	10	8	211	2,110	アセタミプリド, クロチアニジン, シアゾファミド(2), ジェトフェンカルブ, トリフルミゾール, ピラクロストロビン(2), フルジ'オキシニル(2), ホスカリト(4), ミクロブタニル
なす	3	1	211	633	クロルフェナピル, ピラクロストロビン, フェンハレレート, フェンピロキシメート, ププロフェジン, ホスカリト
にら	5	5	211	1,055	アセタミプリド, クロチアニジン(2), ジノテフラン(2), シペルメリン(3), テブコナゾール, トルフェンピラト(3), フルジ'オキシニル, リニユロン
にんじん	2	0	211	422	
にんにく	1	0	210	210	
ねぎ [青ねぎ, 白ねぎ]	7	4	211	1,477	アゾキシストロビン(2), クロチアニジン, クロルフェナピル, ジノテフラン(2), チアチキサム, トルフェンピラト
はくさい	3	2	211	633	アセタミプリド, イミダクロプリド, ピラクロストロビン, フルフェノクスロン, ホスカリト, ルフェスロン
ばれいしょ	4	1	209	836	ホスチアゼート
ピーマン	5	3	211	1,055	アゾキシストロビン, イミダクロプリド, クロルフェナピル, フェナリモル, ホスカリト(2)
ブロッコリー	2	0	211	422	
ほうれんそう	5	4	211	1,055	イミダクロプリド(2), フェンピロキシメート, フルフェノクスロン(4)
未成熟いんげん [さやいんげん, ジャンボいんげん]	5	1	211	1,055	ジノテフラン, フルジ'オキシニル
メロン類果実	1	0	211	211	
やまいも [ながいも]	2	0	209	418	
レタス [結球レタス, サニーレタ ス, グリーンレタス]	7	4	211	1,477	アセタミプリド, クロルフェナピル, シペルメリン(2), チアチキサム(3), ホスカリト
計	133	66	—	28,038	150

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

② 国内産果実

食品分類 [作物例]	検体数	検出 検体数	最大検査 項目数	延べ検査 項目数	検出農薬有効成分(件数)
うめ	1	1	211	211	フェンブコナゾール
おうとう	1	1	210	210	ジノテフラン, シフルトリン, ピラクロストロビン, ホスカリト
かき	4	4	211	844	クロチアニジン, ジノテフラン(4), ビフェントリン
キウイー	1	1	209	209	クレソキシムメチル, シヘルメリン, メチダチオン
すもも	1	1	210	210	クレソキシムメチル, ジノテフラン
西洋なし	1	1	210	210	シヘルメリン
その他の果実 [いちじく]	1	0	211	211	
その他のかんきつ類 果実 [かぼす, ゆず, 甘平]	3	0	208	624	
日本なし	3	2	211	633	アセタミプリド, アゾキシストロビン, クロチアニジン, ジノテフラン(2), ジフェノコナゾール, シヘルメリン, チアメキサム, デルタメリン及びトラロメリン, トルフェンピラト, ピラクロストロビン(2), ビリダヘン, フェンブコナゾール, ホスカリト(2)
びわ	1	0	210	210	
ぶどう [デラウェア, 巨峰]	4	4	211	844	アセタミプリド, クレソキシムメチル(2), クロルフェナピル, ジノテフラン(2), シプロジニル, フェンブコナゾール, フルシオキシニル
みかん	3	3	208	624	ジノテフラン(3), テフコナゾール(2), トリフロキシストロビン, トルフェンピラト, ビフェントリン, フェントエート, ププロフェジン, メチダチオン
もも	3	3	209	627	アセタミプリド, クレソキシムメチル, チアクロプリド, フェンブコナゾール, ププロフェジン(2), ヘキサコナゾール, ホスカリト
りんご	3	3	210	630	クロチアニジン, シヘルメリン(3), チアクロプリド(2), トリフロキシストロビン, フェンプロバトリン, ホスカリト(3)
計	30	24	—	6,297	72

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

③ 輸入野菜

食品分類	生産地	検体数	検出 検体数	最大検査 項目数	延べ検査 項目数	検出農薬有効成分(件数)
アスパラガス	メキシコ	1	0	211	211	
いちご	アメリカ	1	1	211	211	キノキシフェン, ピラクトストロビン, フェンプロパトリン, ホスカリト, ミクロブタニル
おくら	フィリピン	2	1	211	422	ジノテフラン
かぼちゃ	ニュージーランド	2	1	211	422	キノキシフェン, ミクロブタニル
キャベツ	中国	2	0	211	422	
ごぼう	中国	1	0	210	210	
さといも類	中国	1	0	209	209	
しょうが	中国	2	0	210	420	
たまねぎ	中国	4	0	211	844	
にんじん	中国	3	2	211	633	テフコナゾール, ホスチアセート, ミクロブタニル
にんにく	中国	2	0	210	420	
ねぎ	中国	2	2	211	422	クロチアジソン(2), チアマトキサム(2)
パプリカ	韓国, オランダ	3	2	211	633	アゾキシストロビン, ジノテフラン
ブロッコリー	アメリカ	1	0	211	211	
メロン類果実	メキシコ	1	1	211	211	イミダクロプリト
レタス	台湾	1	1	211	211	チアマトキサム, プロシトリン
計		29	11	—	6,112	20

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

④ 輸入果実

食品分類	生産地	検体数	検出 検体数	最大検査 項目数	延べ検査 項目数	検出農薬有効成分(件数)
おうとう	アメリカ	1	1	210	210	シハロトリン, テフコナゾール
オレンジ	アメリカ, オーストラリア	3	0	202	606	
キウイ	ニュージーランド	2	0	209	418	
グレープフルーツ	アメリカ, 南アフリカ	4	4	202	808	イミダクロプリト, クロルピリホス(2), ピラクトストロビン(4), ピリプロキシフェン, フェンプロパトリン
パイナップル	フィリピン	1	0	210	210	
バナナ	フィリピン, エクアドル	3	1	207	621	クロルピリホス
パパイヤ	アメリカ	1	1	210	210	イミダクロプリト, フルジオキサニル
ぶどう	チリ, アメリカ	3	3	211	633	アセタミプリト, キノキシフェン, ジフェコナゾール, テフコナゾール, ピラクトストロビン, ヒリメタニル, フェンプロパトリン, ホスカリト, ミクロブタニル
ライム	メキシコ	1	0	202	202	
レモン	アメリカ, チリ	2	2	202	404	プロプロフェジン, ホスメット
計		21	12	—	4,322	25

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

(3) 食品添加物(防ばい剤)検査の食品別検体数及び検出状況

(単位: mg/kg)

食品分類	生産地	検体数	延べ 検査 項目数	アゾキシ ストロビン	イマザリル	オルト フェニル フェノール	ジフェニル	チアベンダ ゾール	ピリメタニ ル	フルジ オキサニル	プロピコナ ゾール
オレンジ	アメリカ, オーストラリア	3	24	N. D.	0.83 ~1.8	N. D.	N. D.	0.35 ~1.4	N. D.	N. D.	N. D.
グレープ フルーツ	アメリカ, 南アフリカ	4	32	N. D.	1.2 ~3.1	0.3 ~0.8	N. D.	0.47 ~1.7	N. D.	N. D.	N. D.
バナナ	フィリピン, エクアドル	3	6	—	0.01	—	—	N. D.	—	—	—
ライム	メキシコ	1	8	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
レモン	アメリカ, チリ	2	16	N. D. ~0.45	0.41 ~0.85	N. D.	N. D.	0.08 ~0.43	N. D.	0.73 ~0.75	N. D.
計		13	86	—	—	—	—	—	—	—	—

2 農産物の安全・安心推進事業における市内産出荷前検査（残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況）

検体名	検体数	検出検体数	最大検査項目数	延べ検査項目数	検出農薬有効成分（件数）	
野	アスパラガス	2	1	211	422	イミダクロプリド
	いちご	5	2	211	1,055	クレソキシムメチル、ノバルロン、フルフェノクスロン、ルフェスロン
	えだまめ	3	1	211	633	ジノテフラン
	かつおな	5	3	211	1,055	シアゾファミド(2)、ジノテフラン
	かぶ(根)	3	2	211	633	クロルフェナピル、ジノテフラン
	かぶ(葉)	3	3	211	633	アセタミプリド、クロチアニジン、クロルフェナピル(2)、シアゾファミド(2)、ジノテフラン、チアトキサム、トルフェンピラト
	かぼちゃ	1	1	211	211	トリフルゾール
	キャベツ	4	0	211	844	
	こな	1	0	211	211	
	こまつな	4	4	211	844	アセタミプリド、クロルフェナピル(2)、シアゾファミド、ジノテフラン(3)、シベルメリン、フルフェノクスロン(3)、リニューロン
菜	しゅんぎく	11	10	211	2,321	アセタミプリド(3)、アゾキシストロビン、イミダクロプリド、クロチアニジン(3)、クロルフェナピル(3)、ジノテフラン(5)、チアトキサム(2)、トリクロホスメチル、フルフェノクスロン(7)、プロピサミド(3)、レナシル
	すいか	1	0	211	211	
	だいこん(根)	4	0	211	844	
	たまねぎ	2	0	211	422	
	トマト	2	0	211	422	
	なす	2	1	211	422	アセタミプリド、アゾキシストロビン
	ねぎ	5	2	211	1,055	クロルフェナピル、シベルメリン
	ブロッコリー	4	0	211	844	
	ほうれんそう	3	3	211	633	イミダクロプリド、クロチアニジン、ジノテフラン、フルフェノクスロン
	みずな	2	2	211	422	アゾキシストロビン、ジノテフラン、トリフルラリン、トリクロホスメチル
小計	67	35	-	14,137	75	
果実	あまなつ	2	2	208	416	メチダチオン(2)
	うめ	1	1	211	211	クレソキシムメチル、メチダチオン
	すもも	1	0	210	210	
	日向夏	1	1	208	208	メチダチオン
	ぶどう	2	1	211	422	クロルフェナピル、シフルトリン、フェンプロナゾール
	小計	7	5	-	1,467	8
合計	74	40	-	15,604	83	

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

3 青果市場ブランド推進施策における市外産出荷前検査（残留農薬検査の食品別検体数及び検出状況）

検体名	検体数	検出検体数	最大検査項目数	延べ検査項目数	検出農薬有効成分（件数）	
野	赤しそ	1	0	211	211	
	甘長とうがらし	1	0	211	211	
	かぶの根	1	0	211	211	
	かぶの葉	1	1	211	211	シアゾファミド
	こまつな	1	1	211	211	シアゾファミド
菜	つぼみな	1	1	211	211	ジノテフラン
	なす	3	2	211	633	クロルフェナピル(2)
	レタス	1	0	211	211	
	小計	10	5	-	2,110	5
果実	すもも	1	0	210	210	
	小計	1	0	-	210	0
合計	11	5	-	2,320	5	

※検出農薬有効成分にカッコ書きがないのは1回検出したことを表す。

4 調査研究等（分析法の検討）

	検体数	最大検査項目数	延べ検査項目数
妥当性評価試験	20	1	20
新規分析方法検討	583	255	145,708
合計	603	-	145,728

VI 違反食品等の発見状況

1 食品衛生法違反

(1) 収去検査

年 月 日	検 体 名	産 地	違 反 内 容		措 置
			条 項	内 容	
R1. 5. 27	オクラ	国産	第11条 第3項	成分規格 インドキカルブ [※] 0.02ppm検出 ※基準値 0.01ppm	所管部署へ通知
R1. 12. 9	かつおな	国産	第11条 第3項	成分規格 シマジン 0.02ppm検出 ※基準値 0.01ppm	所管部署へ通知

(2) 巡回監視

場 所	内 容	種類及び件数	措 置
鮮魚市場	食品の取扱不適（衛生的取扱い）	魚介類等（22件）	口頭指導

2 食品表示法違反

巡回監視

場 所	内 容	種類及び件数	措 置
青果市場	食品の表示の不適	野菜・果実加工品等 (2件)	所管部署への通知 口頭指導

3 農薬取締法違反（適用外使用）疑い

出荷前検査

年 月 日	検 体 名	産 地	違 反 内 容	措 置
R1. 5. 27	こまつな	国 産	リニuron 0.01ppm検出	所管部署へ情報提供
R1. 10. 28	しゅんぎく	国 産	レナシル 0.02ppm検出	所管部署へ情報提供
R1. 11. 25	しゅんぎく	国 産	イダクプロリト [※] 0.01ppm検出	所管部署へ情報提供
			トルクロスチル 0.17ppm	

所管部署での調査の結果、農薬取締法の違反はなかった。なお、使用器具の洗浄不足等が疑われた場合には、所管部署より生産者に対する指導がなされている。

4 不適魚等の発見状況

巡回監視

年月日	魚種名	尾数	漁獲海域	発見時の状況	措置
R1. 7. 19	不明フグ	1	平戸沖	西卸売場にて陳列	当所で引取り
R1. 10. 31	ホシフグ	3	不明	一般廃棄缶で発見	当所で引取り
R1. 11. 25	クマサカフグ	4	不明	一般廃棄缶で発見	廃棄
R1. 12. 21	ホシフグ	1	不明	一般廃棄缶で発見	廃棄
R2. 3. 3	オオクチイシナギ	1	不明	西卸売場にて陳列	肝臓廃棄指導

VII 苦情・相談及び魚種鑑別

苦情・相談及び魚種鑑別一覧

番号	年 月 日	件 名	分 類
1	平成31年4月3日	養殖魚のスーパーへの卸販売について	相談
2	平成31年4月4日	貝類の食中毒疑いについて	体調異常
3	平成31年4月11日	水産物のドバイ輸出について	相談
4	令和1年7月19日	不明フグの発見及び鑑別	同定
5	令和1年9月17日	白サバフグむき身の表示について	表示
6	令和1年10月9日	ムール貝麻痺性貝毒疑い	体調異常
7	令和2年2月21日	不明魚の魚種鑑別依頼	同定
8	令和2年3月3日	天然とらふぐの寄生虫について	同定
9	令和2年3月16日	水域名表示について	表示
10	令和2年3月19日	食品表示問い合わせ	表示

以下に番号4, 7, 8の詳細を記載

4	件 名	不明フグの発見及び鑑別		
	年 月 日	令和1年7月19日	分類 同定	
	相談者	—		
	検査項目	同定	検体数 1	
	内 容	夜間監視中、西卸売場棟に競り前陳列されていたイロ箱の中から、コモンフグの特徴がみられたものの、腹部の棘の位置が下方であったこと、通常のコモンフグと比較して色が薄いものであったことから不明フグと判断し、現場陳列していた業者に不可食フグである可能性があることを説明し、所で引き取り、同定を行った。		
対 応	日本産魚類検索にて種の同定をした結果、一致するものがなく、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校に相談。通称銀河系コモンフグと呼ばれるもので、雑種や新種ではない種内変異で、研究の進んでいないフグであると回答があった。扱いとしては不明フグとして流通から排除するのが適切とのことであった。			
7	件 名	不明魚の魚種鑑別依頼		
	年 月 日	令和2年2月21日	分類 同定	
	相談者	市場内仲卸業者		
	検査項目	同定	検体数 1	
	内 容	アカイサキのトロ箱の中に不明魚が入っていたので、魚種を教えてください。		
対 応	シキシマハナダイであると回答。			
8	件 名	天然とらふぐの寄生虫について		
	年 月 日	令和2年3月3日	分類 同定	
	相談者	市場内卸売業者		
	検査項目	同定	検体数 1	
	内 容	天然とらふぐの筋肉部位に寄生虫がいたので、種類を調べてほしい。		
対 応	線虫類であると考えられたが、種類確認のため福岡県水産試験センターに鑑定依頼。鑑定の結果、①渦巻状になっていないこと ②サイズが大きいこと ③筋肉部で発見されたことより、アニサキスではないのではないかとのことであった。線虫において人体に害を与えるものは①旋尾線虫の一種 ②アニサキスのどちらかであるため、人体に害はないのではないかとのことであった。以上の鑑定結果を回答。			

Ⅷ 衛生講習会・施設見学会

1 衛生講習会

実施日	担当	内 容	対 象 団 体 名	参 加 者 数
R1.6月及び R1.9月	鮮魚市場係	◆7S講座(計2回)	卸売業者, 仲卸業者, 関連事業者	50
R1.6.26		◆HACCP勉強会	卸売業者, 仲卸業者, 関連事業者	19
R1.9.4		◆HACCP勉強会	仲卸業者	24
R1.12.5		フグ等有毒魚介類講習会	卸売業者, 仲卸業者, 出荷仲卸業者等	25
		フグ鑑別実習		32
R1.12.17 ,18		◆食品衛生法改正に 関する説明会	卸売業者, 仲卸業者	58
H31.4.25	青果市場係	食品衛生講習会	卸売業者	7
R1.6月及び R2.2月		HACCP導入支援の説明会 (計4回)	卸売業者, 仲卸業者等	16
H31.4月 ~R2.2月		◆卸売業者HACCP会議 (計13回)	卸売業者	207
R1.7月 ~11月		◆7S講座(計7回)	卸売業者, 仲卸業者等	232
R2.2.8		園芸流通講演会	福岡市園芸振興協会会員 等	126
実施回数 32 回			参加者合計	796

◆ : HACCP導入支援 (p 25に再掲)

2 監視員等研修

実施日	内 容	対 象 団 体 名	参 加 者 数
R1.12.5	食品衛生監視員フグ研修会	食品衛生監視員	4

3 施設見学会

	内 容	団体区分	件数	人数
鮮魚市場	鮮魚市場の食品衛生について	学校等	2	78
青果市場	青果市場の食品衛生について	消費者	1	20
		行政	7	68
		生産者	5	53
		学校等	4	223
計			19	442

4 食品衛生月間行事



食品衛生月間行事

開催日：令和元年8月8日（木），
令和元年8月9日（金）
場 所：福岡市中央卸売市場鮮魚市場
参加者：7名（他に見学の保護者4名）

〈内容〉

「鮮魚市場の検査室で実体験
～魚種鑑別と食品検査～」

- ・手洗い実習
- ・細菌検査

5 市民開放型イベント



ベジフル感謝祭 ～バックヤードツアー・青果物を使った実験～

開催日：毎月第3土曜日
（ベジフル感謝祭での企画として実施）
場 所：福岡市中央卸売市場青果市場
参加者：バックヤードツアー 156名， 8回実施
青果物を使った実験等 59名， 3回実施

〈実験内容〉

- ・紫キャベツを使った実験
- ・ビタミンCを調べよう
- ・バナナを使った実験

Ⅸ HACCP導入支援

平成30年6月13日に公布された「食品衛生法等の一部を改正する法律（以下「改正法」といいます。）により、原則として全ての食品関連事業者が、HACCPに沿った衛生管理を実施することが制度化された（令和2年6月1日施行，令和3年5月31日経過措置期間終了）。

福岡市食品衛生検査所では，食品の流通拠点における重点的な取組みとして，平成29年度から卸業者等経営陣への働きかけ，市場内作業従事者の機運醸成などの視点から，段階的な導入支援を実施している。

<主な取り組み内容>

- ・法改正の説明会（平成30年度～）
- ・講演会&ワークショップ（平成30年2月）
- ・HACCP勉強会
- （ 鮮魚市場：おしかけミニミニ講座（平成29年度～），
とってやさしいHACCPゼミ（入門編，実務編）（平成30年度～）等
青果市場：ベジハサ^{※1}（入門編，実務編）（平成30年度～）等
- ・7S講座^{※2}（令和元年度～）
- ・情報発信（掲示板，ニュースレター等）（平成29年度～）

※1 ベジフルスタジアムのハサップを考える会

※2 実験を取り入れた体験型衛生講習会

<令和元年度の取り組み>

令和元年度は，法改正の説明会の開催，HACCP勉強会の開催，実験を取り入れた体験型衛生講習会である7S講座の開催等の取り組みを実施した。

1 鮮魚市場系の取組み

① 法改正の説明会

	実施日	対象	参加人数	備考
1	12月17日， 18日	卸売業者，仲卸業者	58人	-

② HACCP勉強会

	実施日	対象	参加人数	備考
1	6月26日	卸売業者，仲卸業者， 関連事業者	19人	-
2	9月4日	仲卸業者	24人	-

計 43人

③ 7S 講座

	実施日	対象	参加人数	備考
1	6月20日	卸売業者, 仲卸業者, 関連事業者	27人	温度実験①
2	9月18日, 20日	卸売業者, 仲卸業者, 関連事業者	23人	温度実験②

計 50人

2 青果市場の取組み

① HACCP 勉強会（卸業者 HACCP 会議にオブザーバー出席し、HACCP 導入支援）

	実施日	対象	参加人数	備考
1	4月12日	卸売業者	16人	-
2	5月17日	卸売業者	18人	卸売場ウォークスルー
3	7月25日	卸売業者	22人	-
4	8月29日	卸売業者	19人	-
5	9月19日	卸売業者	18人	-
6	10月21日	卸売業者	21人	-
7	11月20日	卸売業者	23人	-
8	12月6日	卸売業者	7人	班別の支援
9	12月9日	卸売業者	7人	班別の支援
10	12月14日	卸売業者	6人	班別の支援
11	12月26日	卸売業者	7人	班別の支援
12	1月23日	卸売業者	21人	-
13	2月26日	卸売業者	22人	-

計 207人

② 7S 講座

	実施日	対象	人数	備考
1	7月4日	卸業者・仲卸業者	17人	手の汚れ実験①
2	8月1日	卸業者・仲卸業者	16人	手の汚れ実験②
3	10月8日	卸業者・仲卸業者	12人	温度実験①（細菌培養編）
4	10月10日	卸業者・仲卸業者	34人	温度実験②（計数・解説編）
5	11月8日	仲卸業者	15人	ノロウイルスとは、吐物処理の体験
6	11月15日	卸業者	107人	ノロウイルスとは、吐物処理の体験
7	11月20日	仲卸業者	31人	ノロウイルスとは、吐物処理の体験

計 232人

資料編

I 食品衛生検査所の概要

1 沿革

- 昭和30年 6月 福岡市中央卸売市場が長浜に開設される。
- 昭和31年 4月 長浜本場に環境衛生課所属の鮮魚市場検査室を設置する。(職員1名)
- 昭和35年 3月 長浜本場に青果部が開設される。(職員2名)
- 昭和43年 9月 青果部が五十川(現博多区那珂)に移転し、開設された青果市場に検査室を設置する。(職員3名)
- 昭和46年 6月 環境衛生課所属の食品監視機動班が発足し、本拠を鮮魚市場検査室に置く。(職員3名)
- 昭和48年 4月 食品衛生検査所(課制)が新設され、食肉係、鮮魚青果係の2係体制となる。(鮮魚青果係職員5名)
- 昭和48年11月 鮮魚市場検査室を業務棟に移転する。
- 昭和49年 6月 西部市場が西区石丸に開設され、西部市場に検査室を設置する。(職員7名)
- 昭和52年 4月 青果市場検査室を管理庁舎に移転する。
- 昭和53年 4月 食肉係及び鮮魚青果係がそれぞれ課制へ独立し、食肉衛生検査所、食品衛生検査所となる。鮮魚青果係の名称も食品係として発足する(職員7名)
- 昭和54年 4月 食品監視機動班が食品衛生検査所に編入される。(職員10名)
- 昭和57年 7月 東部市場が東区下原に開設され、東部市場に検査室を設置する。(職員11名)
- 昭和58年 4月 検査第1係、検査第2係の2係体制となる。(職員12名)
- 昭和61年 3月 検査第1係(鮮魚市場検査室)を事務所棟に移転する。
- 昭和63年 4月 食品監視機動班がアジア太平洋博覧会関連で主査制となり、運用で環境衛生課に所属する。
- 平成 2年 4月 食品監視機動班は環境衛生課の所属となる。(職員9名)
- 平成 6年 4月 検査第1係は第1係に、検査第2係は第2係に名称変更する。第2係の職員が1名増員される。(職員10名)
- 平成 8年 4月 残留農薬検査専任主査を新設する。(職員10名)
- 平成10年 4月 動物用医薬品検査及び市民啓発専任主査を新設する。(職員10名)
第1係を鮮魚市場会館12階に移転する。
- 平成13年 3月 西部市場及び東部市場の検査室を青果市場検査室に統合する。
- 平成22年 4月 残留農薬検査専任主査、動物用医薬品検査及び市民啓発専任主査を廃止する。(職員10名)
- 平成25年 4月 第1係は鮮魚市場係に、第2係は青果市場係に名称変更する。
- 平成28年 2月 青果部3市場(青果・西部・東部)がアイランドシティ(東区みなと香椎)に移転統合して、新青果市場(ベジフルスタジアム)が開設、青果市場係も新青果市場に移転する。

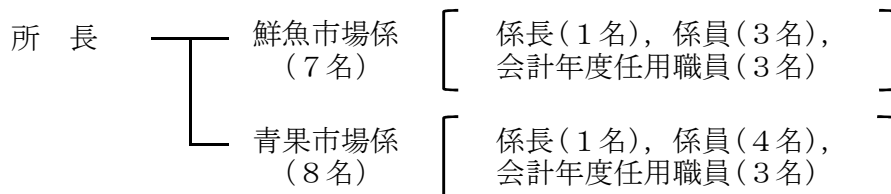
2 施設

食品衛生検査所	鮮魚市場係	所在地	中央区長浜3丁目11-3 (福岡市中央卸売市場鮮魚市場 市場会館12階)		
		施設面積	568m ²	検査室	372m ²
	事務室			196m ²	
	青果市場係	所在地	東区みなと香椎3丁目1-1 (福岡市中央卸売市場青果市場 市場会館2階)		
施設面積		479m ²	検査室	366m ²	
	事務室		113m ²		

3 職員構成

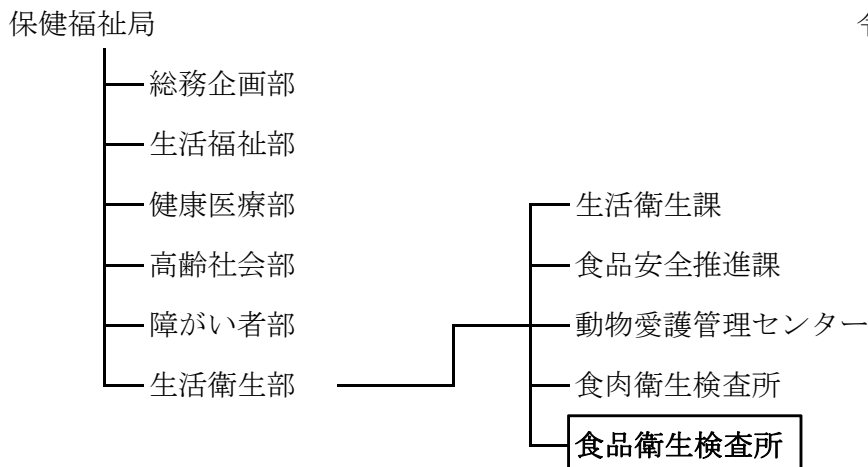
令和2年8月1日現在

食品衛生検査所 16名 (職員 10名, 会計年度任用職員 6名)



4 保健福祉局組織機構

令和2年4月1日現在



5 勤務・監視体制

	鮮魚市場係	青果市場係
勤務時間	8:00~17:10	8:00~17:10
通常監視	8:00~ (全開場日)	8:00~ (全開場日)
早朝監視 ・ 夜間監視	①0:00~ (週1回, 2名) ②6:00~ (必要に応じて) ※0時からの監視時, せり前に定期的に収去	①6:00~ (月1~2回, 5名) ②7:00~ (月1回, 2名) ※6時からの監視時, せり前に収去
せり時間	3:00~15:00	7:00~15:00

II 市場の概要

1 鮮魚・青果市場の概況

令和2年7月1日現在

区 分		鮮 魚 市 場	青 果 市 場 *
所 在 地		中央区長浜3-11-3	東区みなと香椎3-1-1
開 設 年 月		昭和30年6月開設	平成28年2月開設
取 扱 品 目		生鮮・冷凍水産物 及びその加工品	青果物及び その加工品並びに鳥卵
施設規模 m ²	敷 地 面 積	120,400	149,691
	卸 売 場 面 積	27,472	11,796
	仲 卸 売 場 面 積	5,413	11,124
	冷 蔵 庫 面 積	12,294	8,681
卸 売 業 者		2	1
仲 卸 業 者		41	34
売 買 参 加 者		152	470
関 連 事 業 者		44	31
開 場 時 間		0:00 ~ 24:00	0:00 ~ 24:00
せ り 時 間		3:00 ~ 15:00	7:00 ~ 15:00

* ベジフルスタジアム (愛称)

2 品目別取扱高

(1) 年度別 水産物部

区分	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		開場日数	286	285	285	282	282	278
総 数	数量(ト)	77,244	78,554	78,217	69,954	71,706	67,703	58,885
	指数	100	102	101	91	93	88	76
	金額(千円)	44,293,314	46,672,156	47,519,148	45,544,213	44,748,444	43,317,466	39,461,415
	指数	100	105	107	103	101	98	89
	平均単価(円/kg)	573	594	608	651	624	640	670
	指数	100	104	106	114	109	112	117
生 鮮	数量(ト)	66,455	67,798	68,234	60,939	63,869	60,380	51,834
	指数	100	102	103	92	96	91	78
	金額(千円)	34,334,397	36,233,243	37,263,302	35,732,827	35,360,002	34,546,482	31,141,011
	指数	100	106	109	104	103	101	91
	平均単価(円/kg)	517	534	546	586	554	572	601
	指数	100	103	106	113	107	111	116
冷 凍	数量(ト)	7,870	8,155	7,226	6,573	5,562	5,215	5,076
	指数	100	104	92	84	71	66	64
	金額(千円)	6,926,913	7,447,397	7,196,012	6,865,489	6,472,433	6,094,585	6,180,328
	指数	100	108	104	99	93	88	89
	平均単価(円/kg)	880	913	996	1,044	1,164	1,169	1,217
	指数	100	104	113	119	132	133	138
塩 干 加 工	数量(ト)	2,920	2,601	2,756	2,442	2,275	2,108	1,975
	指数	100	89	94	84	78	72	68
	金額(千円)	3,032,004	2,991,516	3,059,834	2,945,898	2,916,009	2,676,398	2,140,076
	指数	100	99	101	97	96	88	71
	平均単価(円/kg)	1,038	1,150	1,110	1,206	1,282	1,270	1,083
	指数	100	111	107	116	124	122	104

(2) 年度別 青果部

区分	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		開場日数	267	265	262	262	256	253
総 数	数量(ト)	329,010	324,707	323,487	342,478	325,979	305,075	310,463
	指数	100	99	98	104	99	93	94
	金額(千円)	63,161,617	63,824,405	69,242,662	74,189,191	70,490,666	65,603,089	64,863,121
	指数	100	101	110	117	112	104	103
	平均単価(円/kg)	192	197	214	217	216	215	209
	指数	100	103	111	113	113	112	109
野 菜	数量(ト)	259,227	255,179	256,968	275,432	255,967	238,874	243,782
	指数	100	98	99	106	99	92	94
	金額(千円)	43,748,108	43,223,002	47,733,972	52,286,183	48,215,985	43,008,560	42,333,481
	指数	100	99	109	120	110	98	97
	平均単価(円/kg)	169	169	186	190	188	180	174
	指数	100	100	110	112	111	107	103
果 実	数量(ト)	69,036	68,893	65,907	66,538	69,526	65,730	66,200
	指数	100	100	95	96	101	95	96
	金額(千円)	19,217,309	20,428,610	21,336,569	21,764,812	22,144,448	22,475,752	22,408,608
	指数	100	106	111	113	115	117	117
	平均単価(円/kg)	278	297	324	327	319	342	339
	指数	100	107	117	118	115	123	122
鳥 卵	数量(ト)	748	635	611	508	486	471	482
	指数	100	85	82	68	65	63	64
	金額(千円)	196,201	172,793	172,122	138,196	130,233	118,778	121,032
	指数	100	88	88	70	66	61	62
	平均単価(円/kg)	262	272	282	272	268	252	251
	指数	100	104	108	104	102	96	96

Ⅲ 調査研究及び事例報告

1 一覧（平成7年度～令和元年度）

年度	題 名	発 表 先
H7	青果物の残留農薬の一斉分析	全国食品衛生監視員研修会発表（優秀課題）
	アオブダイ肝臓の毒性について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	福岡市中央卸売市場（鮮魚市場）を流通しているマサバにおけるアニサキスの寄生状況について	〃
	輸入レモンの防ばい剤について	〃
H8	福岡市中央卸売市場を流通する農産物からの農薬の検出状況について	全国食品衛生監視員研修会発表
	等電点電気泳動によるフグ及びその他の魚種の肝臓の鑑別法について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	麻痺性貝毒の検査結果について	〃
	食用不適魚等の発見状況及び毒性検査結果について	〃
	パセリに残留する有機りん系農薬の調査について	〃
	アセフェート、メタミドホスの検査法の検討及び青果物における残留実態について	〃
H9	固相抽出法による茶の残留農薬検査法の検討	全国食品衛生監視員研修会発表
	冷凍マグロからの一酸化炭素の検出状況について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	魚介類中の水銀の検査結果について	〃
	バミドチオンの検査法の検討	〃
	極性有機りん系農薬の検査法の検討	〃
H10	春菊・小松菜にアセフェート、フルフェノクスロン、シベルメトリンを散布したときの農薬残留量の検討	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	エトフェンプロックスの分析法と検出事例について	〃
H11	積層カラムを用いた残留農薬一斉分析法の検討	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	規格基準追加農薬（第7次、第8次改正）の検査法の検討について	〃
H12	養殖魚介類のオキシテトラサイクリン違反事例について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	鮮魚市場内の仲卸業者に対する生食用魚介類の取扱い方法の聞き取り調査について	〃
	第7、8次改正農薬検査法の再検討及び第9次改正農薬検査法の検討について	〃
H13	ダミノジッド告示法の改良及び違反事例について	全国食品衛生監視員研修会発表
	生ウニの衛生確保に関する鮮魚市場低温セリ場の温度管理について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	新規漁獲海域で漁獲された魚類のシガテラ毒検査について	〃

年度	題 名	発 表 先
H13	輸入レモンのイマザリル使用基準違反事例	〃
	福岡市中央卸売市場（青果市場）を流通しない青果物の実態調査報告（第1報）	〃
	第8、9次改正農薬検査法の再検討及び第10次改正農薬検査法の検討について	〃
H14	生食用鮮魚介類の規格基準施行に伴う当所の指導及び成果について	全国食品衛生監視員研修会発表
	市内に流通する二枚貝の小型球形ウイルス汚染実態調査	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	野菜類の臭素残留実態調査	〃
	第10次改正農薬検査法の再検討及び第11次（平成13年度告示）改正農薬検査法の検討について	〃
H15	野菜類の臭素残留実態調査および生産者指導について	全国食品衛生監視員研修会発表（優秀課題）
	収去検査成績書発行システムの導入について	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	鮮魚市場内の浄化海水について	〃
H16	生産者指導に向けた残留農薬検査結果の有効活用に向けて	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
H18	九州以北の海域で漁獲されたマアジの水銀・PCBについて	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	生カキのE. coli検査における擬陽性の発生に関する考察	〃
H19	対馬海域におけるマサバに寄生するアニサキスについて	福岡市衛生行政研究協議会食品・獣疫部会発表
	ポジティブリスト制度導入後の残留農薬基準違反について（I）	〃
H20	九州北部沿岸のナゴヤ系フグについて（1）	
	九州北部沿岸のナゴヤ系フグについて（2）	
	生産者との共働による「出荷前農産物」の残留農薬調査－安全性確保のための取り組みについて－	福岡市食品衛生研究発表会発表
	ポジティブリスト制度に対応したLC-MS/MSによる青果物中の残留農薬一斉分析の検討（II）	
H21	フグ骨格について	食品衛生研究発表会（九州大会）
	かつおなの実験的洗浄・調理による水溶性農薬の低減について	
	GC-MS/MSによる青果物中の残留農薬一斉分析法の検討	

年度	題 名	発 表 先
H22	皮むき等の調理による青果物中残留農薬の減少について	福岡市食品衛生研究発表会発表
H23	テングニシ唾液腺中のテトラミン含有量調査および食中毒防止へ向けての取組み	食品衛生研究発表会（九州大会）
	福岡市食品衛生検査所における残留農薬検査体制と近年の農薬検出状況について	福岡市食品衛生研究発表会発表
H24	鮮魚市場を流通する生食用ウニにおける監視指導結果と食中毒予防に向けての取組み	福岡市食品衛生研究発表会発表
	急性参照用量（ARfD）を用いた残留農薬の健康影響評価の検討	福岡市食品衛生研究発表会発表
H25	安全安心な鮮魚を市場から！ 卸会社との協働による生食用貝柱の安全性向上への取組み	福岡市食品衛生研究発表会発表
	農産物の安全・安心推進事業 ～出荷前農産物の残留農薬検査について～	全国食品衛生監視員研修会発表（優秀課題）
H26	鮮魚市場における食品の苦情相談受付状況と対応について	福岡市食品衛生研究発表会発表
	GC-MS/MS及びLC-MS/MSによる青果物中の残留農薬一斉試験法の妥当性評価	
H27	残留農薬検出状況から考えるネオニコチノイド系農薬の土壌残留について	福岡市食品衛生研究発表会発表
H28	福岡市鮮魚市場における有毒魚発見状況と有毒魚排除に向けての取組み	福岡市食品衛生研究発表会発表
H29	ピースフルなベジフルスタジアムを目指して ～施設見学会のリスクコミュニケーション～	福岡市食品衛生研究発表会発表
H30	あの手この手の意識改革 ～鮮魚市場の市民感謝デーにおける取組み～	福岡市食品衛生研究発表会発表
R1	意外におもしろかったハサップ導入支援 そのはじまり ～市場ハサップのトップランナーを目指した取組み～	福岡市食品衛生研究発表会発表
	過去10年間の残留農薬検出状況 ～市場を流通する青果物の残留農薬の傾向～	全国市場食品衛生検査所協議会ポスター発表

意外におもしろかった HACCP 導入支援 そのはじめり
～市場 HACCP のトップランナーを目指した取組み～

保健福祉局生活衛生部食品衛生検査所

○松永萌花, 重村久美子, 今井啓太¹⁾, 佐野由紀子²⁾

佐藤秀樹³⁾, 小林希望⁴⁾, 古賀裕章, 井上佳歩, 野中研一, 石津尚美

1) 現 博多区保健福祉センター衛生課 2) 現 環境局保健環境研究所環境科学課

3) 現 環境局保健環境研究所保健科学課 4) 現 道路下水道局下水道施設部水質管理課

1 はじめに

「社内でいやいや来たけど、意外と面白かった」これは、鮮魚市場の市場関係者への HACCP 導入支援の一環として、平成 29 年 2 月に実施したワークショップでの参加者の感想である。

平成 30 年 6 月の食品衛生法改正により現実となった HACCP 制度化だが、その情報が流れた当初(29 年の夏ごろ)は、すべての事業者に HACCP という課題は、かなり重くその達成は遠い道のりと感じられた。冒頭の言葉は、当所が始めた取組みへの期待のなさを如実にあらわしたものだが、もうひとつ印象に残る言葉があった。「HACCP は商いの場への入場券になる」という経営者の言葉だ。会社は切実な課題と考えているからこそ社員を派遣したわけで、会社のやる気に他ならない、今こそ、衛生管理向上へのビッグチャンスと思い直した。

HACCP は衛生管理のツールであり、法制度化でマストアイテムとなるが、事業者の自主管理にゆだねられており、形だけ整えることもできる。しかし、食の多様化やグローバル化の中、安全な食を届けることの難しさに直面しているのも事実であり、当所では、HACCP に取り組むことで実際に衛生管理が向上し、目に見える効果として内外にアピールすることでさらに商売でもプラスになることを目指し、支援を行ってきた。

本報告は、他に先駆けて実施してきた HACCP 導入のための側面的支援ともいえるべき取組みの内容をまとめたものである。

表-1 市場の諸元

平成30年6月1日現在			
市場	鮮魚	青果	
取扱数量(トン/2018年度)	71,706	325,979	
業 市 者 場 数 内	卸売業者	2	1
	仲卸業者	41	35
	売買参加者	174	490
	関連事業者	45	33
食品衛生検査所職員数 (所長除く)	4	5	
特記事項	博多漁港高度衛生管理整備事業で 順次整備中	2016年2月、新設 ブランド化維新	

(出典) 市場概要 平成30年度版 福岡市中央卸売市場より

2 市場の概要(対象としたフィールド)

福岡市食品衛生検査所は、鮮魚及び青果市場を管轄している。日本の生鮮品の中央卸売市場経由率[※]は、青果 58% (国産 81%)、水産 52%、と減少したとはいえ、生鮮品の半数は市場を経由しており、また、フードチェーンのトップという観点からも市場における安全確保の意義は大きい。さらに、両市場とも表-1 に示す衛生管理にかかわる事業が進行中である。

※平成 29 年度データ出典:農林水産省 HP「卸売市場をめぐる情勢について」平成 30 年 7 月

3 取組みのスキーム

一連の取組みの目的は、制度化を契機に市場のすべての事業者が HACCP による衛生管理を進めることで市場全体の衛生管理が向上し、食の安心面での市場価値が高まり、生産者や消費者(顧客)

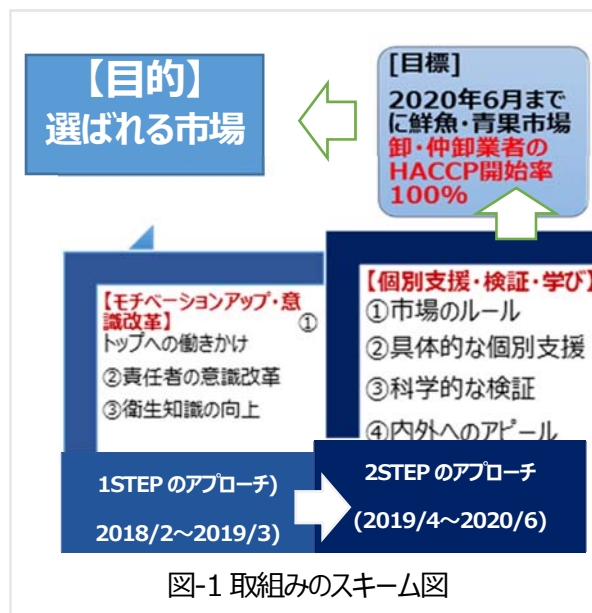


図-1 取組みのスキーム図

から選ばれる市場になることである。しかし、市場関係者のHACCPに対する認識は、設備の整った一部の製造所のものという誤解も多く、なぜそれをする必要があるのかを知るという、事業者の意識そのものをいかに変えていくか、から始める必要があった。当面の目標としては、改正法令の経過措置が終わる2020年6月までに各市場の卸・仲卸業者のHACCP開始率100%を掲げ、その目標達成へのアプローチを2段階に設定し、ファーストステップを「モチベーションアップ・意識改革」、セカンドステップを「個別支援・検証・学び」とした。全体スキームを図-1に示す。各市場ではこのスキームに従い、事業者の構成や規模、取扱い食品のリスクを考慮して具体的な取組みを企画した。

4 ファーストステップの内容と実施状況及び考察

取組みのファーストステップと位置付けた2018年2月から2019年3月の取組みの内容と実施結果を表-2-1に鮮魚市場、表-2-2に青果市場、それぞれのアンケート結果のグラフを図-2-1に鮮魚市場、図-2-2に青果市場の順に示している（事業名の頭に付けた番号が図-1のアプローチの番号）。以下、この取組みの共通ルールと市場ごとの取組内容について、実施結果に考察を加えながら順を追って述べる。

(1) 取組みの共通ルール

① PDCAサイクル

各担当が企画から始め、実施→計画→運営→反省会→検証→次回企画と進めた。この中で最も大切なのは、反省会で、当日のスタッフや講演者も含め30分直後が効率的かつ有効。

② 1話完結の連続ドラマ

気軽さと、集中力を配慮し、講座は1回30分を基本とし、どの会からでも参加できる1話完結型の連続ドラマをイメージしたシリーズ構成とした。コミュニケーションを深める相手の反応を見て、方針転換しやすいなどのメリットが大きい。

③ ニュースレター

事後のふりかえり、未参加者には講座の内容の周知と参加の呼びかけとして利用した。講座の中で言い足りなかったことも、ここでフォローできるが、盛り込み過ぎになりがちであった。

④ 資料

キャッチーな周知用チラシ、絵や写真が物語る当日説明用のパワーポイント、後で役立つお持ち帰り用資料など、各担当者が工夫を重ねて作成した資料はこれからの支援ツールとしても活用する。ホームページにアップするので利用していただきたい。

(2) 鮮魚市場の取組み

講演会とワークショップは、今までにないことで注目を得ようという意図もあり、先進都市の市場衛生検査所でのHACCP取組みの講話及び市場関係者と漁業者・販売者との座談会の組み合わせとし、市場関係者に外から視線を取り入れることを狙った。ここで得たキーワード、「食の安全リレー」、「食の安全は顧客ニーズ」がその後、取組みを進める原動力となり、ブランディング、消費者目線とテーマを変えながら3回実施し、勉強会だけでは下降したであろうモチベーションを保つことができた。

鮮魚市場は卸売業者が2社で、仲卸も含め会社規模で突出したところがなく、横並びで話をする方が競争意識も働き、良い結果を生むだろうと判断した。

それでも、会社として取り組んでもらう必要は変わらないので、影響力のあるキーマンをみつけ、取組みへの協力をお願いした。

アンケート結果のグラフを見ると、ゼミの入門編の理解度が下がったのは本の読み合わせ会が期待外れだったからで、3回目に上がったのは最後に必要なことについてシミュレーションをして見せたからである。そこからの巻き返しは素早くアンケート結果は再度上昇するが、市場のルール作りは、参加者もランクアップし、ゴールが見えず低迷した。アンケート結果、各回の担当者の手ごたえとリンクしていた。

表-2-1 鮮魚市場の取組みの内容と実施結果

市場	事業名	内容	参加人数	平成30年(2018)												平成31年(2019)		
				2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
鮮魚	②おしかけミニ二講座	責任者レベルの業者会合での突撃講座	25/回	会合がある時に不定期 (H29年8月~6回)														
	③講演会&ワークショップ	ゲストによる講演 漁業者・卸・仲卸・販売者の座談会	①83 ②72 ③48	①2/28食の安全リレー ②6/16ブランディング												③3/6消費者目録		
	②とってまやしいHACCPゼミ入門編	1回30~60分で8回。市場関係者との勉強会 HACCPの基礎となる食品衛生7Sの必要性から、危害要因分析のシミュレーション	のべ178	4~9月毎月1回 (6月は3回) 実施														
	①同ゼミ~実務編	みんなで新卸売場のルール作り (現場ウォークスルーで課題把握)	のべ45														1/25,29	
	③HACCP掲示板	手軽で身近な周知のためのホワイトボード	-														10/25設置	

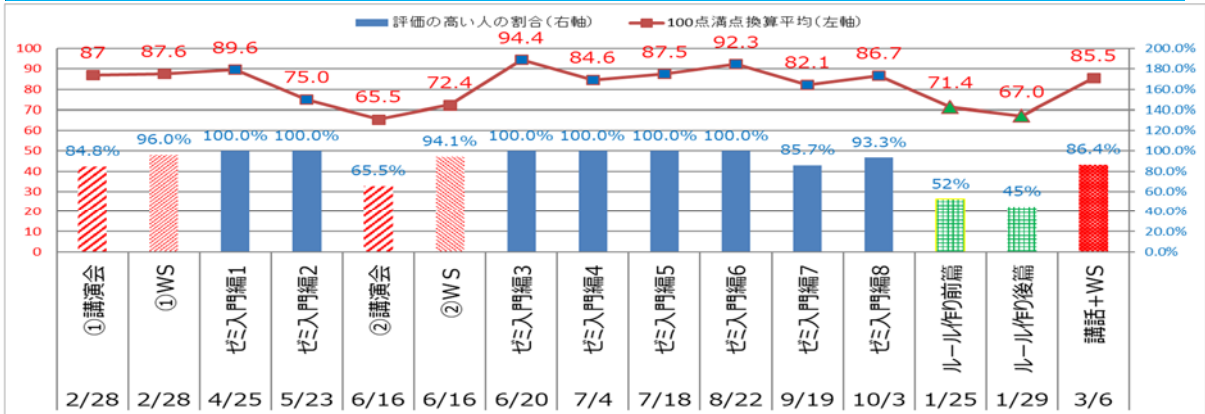
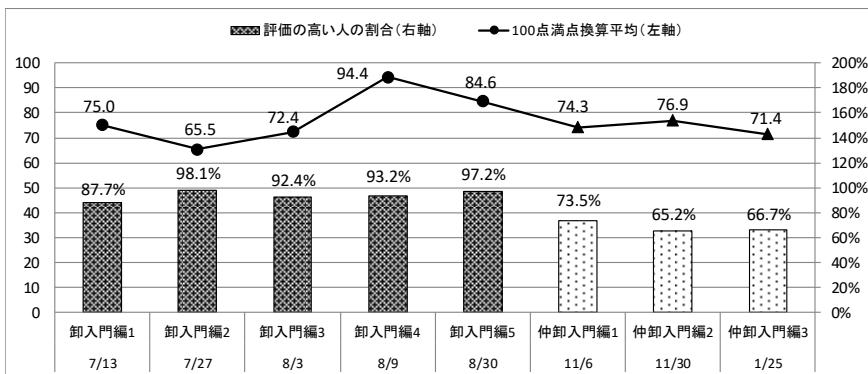


図-2-1 鮮魚市場のアンケート結果 (講座の理解度・満足度) の推移

表-2-2 青果市場の取組みの内容と実施結果

市場	事業名	内容	参加人数	平成30年(2018)												平成31年(2019)		
				2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
青果	①法改正の説明会	法改正の周知と取組予定 (卸3回, 仲卸2回)	のべ53	5~9月卸3回仲卸2回														
	②③ベジハサ※卸・入門編	卸業者向け 40分の5回シリーズ HACCP及び7Sの勉強会	のべ562	7~8月5回														
	②③ベジハサ仲卸・入門編	仲卸業者向け 40分の3回シリーズ HACCP及び7Sの勉強会	のべ97	11~1月														
	②③ベジハサ卸・実務編	HACCPチームを対象に、青果市場での衛生管理計画づくりにチャレンジ	のべ128	9~3月卸のHACCPチームの活動に6回														
	②③ベジハサ特別編	卸・仲卸向け 7S, 食品衛生の基礎知識の習得	110														3/18	

※ベジフルスタジアムのハサップを考える会



・折れ線グラフは、各回の理解度・満足度の評価を最高点を100として換算して平均したもの
・棒グラフは、同じく100点換算の評価のうち75点以上をつけた人の割合

図-2-2 青果市場のアンケート結果 (講座の理解度・満足度) の推移

(3) 青果市場の取組み

HACCP は組織全体で取り組むべき課題で、トップダウン～トップのやる気とその意思を社員へ伝達すること～が必須要件である。青果市場は卸売業者が1社で、社員も100名を超える事業所であり、まず、卸売業者には経営陣への法改正説明会を実施した。市場が食の安全安心も含めたブランド化推進を進めていることもあり、快諾を得てスムーズにスタートでき、HACCPを知ってもらうための講座入門編への出席は毎回100名（出席率90%）を超えていた。その後、卸売業者ではHACCPチームが結成され、実務編へと進んだが、実務編で具体的な事例で演習を試みるときに躓きを見せた。手順の説明はできても具体的に何をすればよいのか悩んだ。実務責任者及び当日の司会進行役とは事前に打ち合わせ、進行はチームに任せ、我々はオブザーバーとして会に参加する形へと徐々に変化させていった。また、アンケート結果のグラフで、卸売業者に比べ仲卸業者の点数（講座の理解度・満足度が75点以上の人の割合）が低いのは、同じ内容を3回に圧縮したためと思われる。資料も全面作り直したが、説明時間が少なすぎた結果だ。

(4) ファーストステップのまとめ

事業者とのコミュニケーションづくりから始まり、HACCPは必須事項という認識を参加者に意識づけできたという点では目標を達成できたといえる。どの事業も内容によって波はあるが高い評価を得ている。しかし、この一年間の我々の取組に1回も参加していない事業者（仲卸）が鮮魚市場で68%(28/41)社、青果市場で37%(13/35社)あり、参加していない事業者への対応が課題だが、まだまだ模様見している感があり今年度にカバーできると考えている。

5 セカンドステップの内容と実施状況及び考察

表-3に取組みの概要を示す。このうち、鮮魚市場での7S体験講座は6/20に1回目を終了した。今年度、鮮魚・青果市場それぞれで年6回を計画している。HACCPに必要な科学的なものの見方や検証などを、当所と事業者と一緒に実験して確かめていこうとするもので、理解度も高く次回への意見も多かった。この後、モデルケースを現場で一緒に構築し、その結果を個別にカスタマイズする形で展開し目標達成を狙っている。

表-3 2Step (2019/5～2020/3) の予定

	鮮魚	青果
ア プ ロ ー チ	①市場ルールづくり	
	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度のふりかえり ・卸売場の課題等の整理 ・共通ルール作成（協議、検証など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・HACCPの取組みに必要な共通ルールを市場関係者で作成 ・年度内に運用開始
	②HACCP導入支援	
	<ul style="list-style-type: none"> ・法改正に伴う政省令の説明会開催 ・事業者ごとの個別導入支援 ・導入事例講習（事例の紹介） ・手引書説明会（卸・仲卸向け） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 順次対応
③7S体験講座		
	<ul style="list-style-type: none"> ・温度実験（温度上昇と時間、氷量など） ・汚れ実験（ゴム手袋、軍手など） ・洗浄実験（包丁、まな板、ふきんなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・温度実験（直置き、箱の置き方など） ・汚れ実験（手袋、トイレの衛生など） ・器具、施設の衛生（包丁、嘔吐処理など）
④モチベーションアップのためのイベント		
	<ul style="list-style-type: none"> ・成果を形にするための第一歩としてのイベント企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全に見える化する取組を対内外にアピールするためのワークショップなど

6 おわりに

当所は市場に常駐しているため、取組みを通して事業者の意識の変化をダイレクトにつかむことができ、何が有効で、どこに落とし穴があるか、を経験することができた。HACCPは危害要因の分析がその根幹と考え、一般的な衛生管理事項であってもなぜそれが必要なかを考えることを常に伝えて来た。目的がはっきりしなければ、いつどこで誰が何をやるかなど一歩も決められない。しかし、理由がわかっているならば、カスタマイズも見直しも事業者自らできる。

HACCPはその形を未来に向け変えていくことに醍醐味がある。これまでの監視指導が後追いであったのに対し、事業者とオンラインでつながることで、より広く監視しながら、スクリーニングをかけ必要かつ細やかな改善指示もできるだろう。ICT活用も見据えすべてマンパワーで後追いではしかなかった監視が未然防止へと近づく、大きな転換期を迎えようとしている。

事件は現場！常に現場でのコミュニケーションが課題解決の糸口であることはまちがいない。

この取組みの講演会&WSで多大な協力～アイデアと励まし～を頂いた前東京都市場衛生検査所長中村 憲久氏、近畿大学教授 日高 健氏、FOOCOM代表森田満樹氏、九州の暮らし創造研究所代表吉田 まりえ氏をはじめ、市場の関係者全ての皆様に謝意を表します。

3 令和元年度報告分 全国市場食品衛生検査所協議会ポスター発表

過去 10 年間の残留農薬検出状況 ～市場を流通する青果物の残留農薬の傾向～

福岡市食品衛生検査所

○井上佳歩, 山崎哲司, 下田佳裕, 川本大輔,
古賀裕章, 松永美樹, 野中研一, 石津尚美

1 はじめに

福岡市の市政モニターを対象に実施した「食の安全安心に関するアンケート調査」において、市民が食に対し不安を感じる 4 大要素の変遷をみると、農薬等に関する不安が減少し、食中毒への不安が増加していることがわかる (図-1)。この変遷は、リスクの大きさの観点からすれば正しい方向に向かっているといえる。しかし、リスクが比較的低い農薬に対する不安が今でも 30%程度あるということは、市民とのリスクコミュニケーションにおいて、アプローチ方法を工夫する必要がまだあるということである。市民の不安は、農薬に対する漠然とした悪いイメージからくるもので、その払拭は具体的かつ科学的な内容を地道に伝えていくこと、すなわち、日々積み重ねてきた農薬の測定結果が意味するところを分かりやすく説明することから始まると考える。

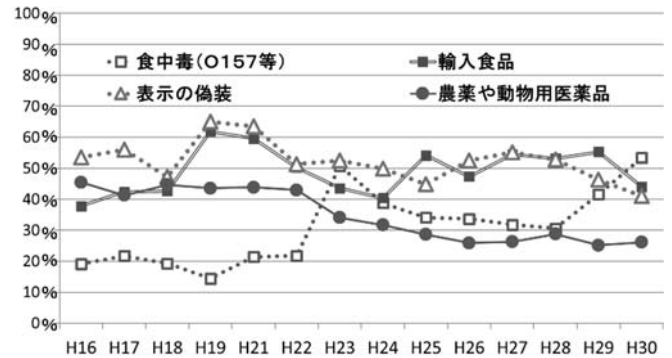


図-1 市民が食に対し不安を感じる 4 大要素の変遷

今回、過去 10 年間で得たデータを解析することで現状把握の洗い出しができたため、その一部を報告する。

2 当所の残留農薬検査結果

今回、平成 21 年度から平成 30 年度の 10 年間に当所で検査した延べ 2,742 検体 (国産 76 品目, 輸入 39 品目), 延べ 542,324 項目 (最大 217 項目/検体) の検査結果を対象に解析を行った。検出した農薬は延べ 2,584 項目であり、各年度の検体数あたりの検出率は 30~50%程度であった。そのうち、過去 10 年間の食品衛生法違反は国産野菜 12 件, 国産果実 1 件, 輸入野菜 2 件の計 15 件 (0.5%) で年に 1~3 検体程度であった。これらの違反事例において、ADI との比較から通常考えられる喫食量により健康被害に直結するような事例はなかった。違反の原因は主に使用器具の洗浄不足やラベルの未確認等であった。また、輸入果実については防ばい剤の検査も併せて実施しており、過去 10 年間で検査した 215 検体のうち基準値を超過した事例はなかった。

3 九州産青果物の農薬検出状況

当市場を経由して流通する青果物の 8 割以上は国産品であり、そのうち半数以上が九州産である。取去検体においても国産品の 7 割以上は九州産である。そこで、当所検査分のうち九州産青果物 (10 年間分) と全国的な調査結果である厚生労働省発表「食品中の残留農薬等検査結果 (国産青果物)

(平成 27 年度)」とで検出状況を比較した。

表-1 検出率上位農薬

	九州産 (10年間)	全国 (平成27年度)
ジノテフラン ★	15.3%	16.3%
クレシムメチル	6.3%	3.0%
アセチプロト	5.3%	4.6%
フルフェキサロン ★	5.0%	3.4%
クロチアジソン	4.5%	3.5%
アジキストロビン	4.5%	3.0%
チアトキサム ★	4.5%	2.3%
プロシドン	3.8%	2.5%
シハルトリル	3.2%	2.7%
ホスカリド	3.2%	4.6%

3-1 農薬の検出率と成分

当所の九州産青果物における農薬検出率上位 10 成分は、全国のデータと大きな相違はなかったが、各項目の検出率が全国の検出率より高い傾向にあった (表-1)。これは、全国のデータが主に保健所でサンプリングされたものであるのに対し、当所は市場内流通品のみを検査しているため、出荷から検査までの経過時間、選定作物の差などが原因であると推

測された。

さらに、3成分(表-1 ★)について、その農薬が検出された代表的な作物を調べた。全国でも検出率上位の「ジノテフラン」は、野菜・果実ともに幅広い作物で検出率が高かった。「フルフェノクスロン」や「チアメトキサム」については、九州の特産品である「青ねぎ」や九州での生産量が比較的多い「ほうれんそう」、「みずな」から多く検出されていた。このことから、当所と全国の検出率の差は作物の地域性にも理由があるのではないかと考えられた。

3-2 九州産と輸入品での使用農薬の違い

(1) ピーマン (パプリカ)

九州産 32 件、輸入品 (A 国産) 31 件について農薬検出率を比較したところ、国内外ともに基準値が高い農薬が多く検出された。

①殺菌剤：A 国産では日本で使用が認められていない「テトラコナゾール」が多く検出されており、九州産では「プロシミドン」が多く検出された(図-2)。

②殺虫剤：全体的に A 国産で多く検出された。これは、A 国産の農薬使用量が多い、若しくは残留性が高い農薬を使用しているのではないかと推測される(図-3)。

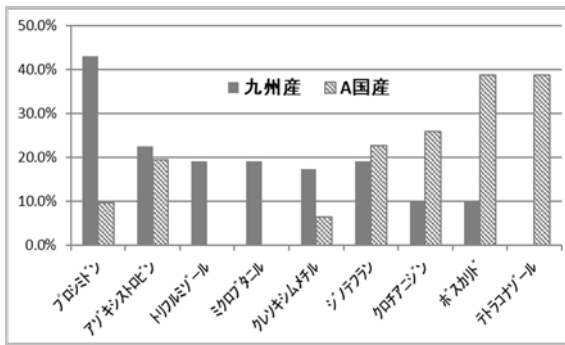


図-2 九州産・輸入ピーマン (パプリカ) 農薬 (殺菌剤) 検出率

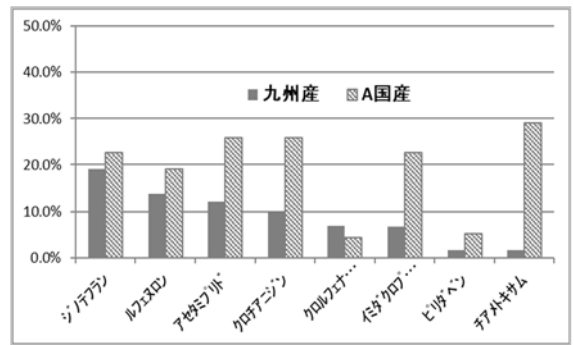


図-3 九州産・輸入ピーマン (パプリカ) 農薬 (殺虫剤) 検出率

(2) かんきつ類

九州産 61 件、輸入品 (B 国産) 84 件について、農薬検出率を比較した(図-4)。国内外ともに殺虫剤が多く検出されていることが確認されたが、九州産では「メチダチオン」、B 国産では「クロルピリホス」が多く検出され、ピーマン (パプリカ) と同様、検出された農薬が大きく異なった。

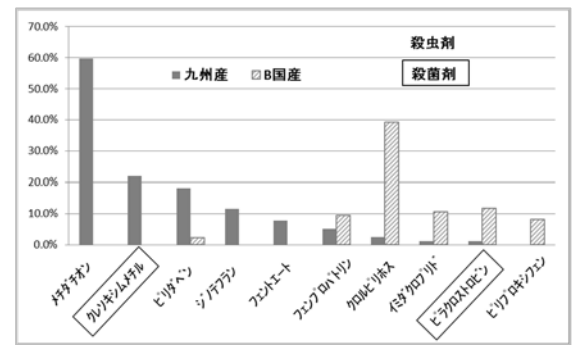


図-4 九州産・輸入かんきつ類の農薬検出率

4 まとめ

今回 10 年間の検査データをまとめ、当所の検査実績及び違反状況等を報告した。また、当所の九州産青果物における検出農薬が全国と類似している一方、全国に比べ検出率が高いことや、九州産と輸入品とで検出農薬が異なることが確認された。

当所では福岡市農林水産局と共同で、農薬の適正使用推進を目的とした「出荷前検査」も実施している。今後も検査データを随時更新するとともに、出荷前検査のデータや防除履歴の情報も追加し、検出されやすい農薬や作物を洗い出すことで、収去計画の見直しや追加項目の検討に役立てていく。また、生産者へのデータのフィードバックにより農薬の適正使用がさらに進み、消費者の安心度アップにつながることを期待している。さらに当市場は市場見学にも対応しているため、今後も生産者や消費者に対し、当所の取組を説明するとともに両者との対話、すなわち、橋渡しにより消費者の農薬に対する不安の解消につなげていきたいと考えている。

過去10年間の残留農薬検出状況（詳細データ）

平成21年度から平成30年度の10年間に当所で実施した収去検査結果をまとめました。

(1) 検査実施状況・検出結果

過去10年間で、延べ2,742検体（国産76品目、輸入39品目）、延べ542,324項目（最大217項目/検体）の検査を実施しました。

		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	総計	検出率
総計	検査検体数	352	348	311	290	290	270	201	271	208	201	2,742	—
	検出検体数	127	138	137	133	127	126	91	133	98	103	1,213	44.24%
	検査延べ項目数	62,615	68,394	61,704	57,632	54,840	55,418	41,700	54,869	41,714	43,438	542,324	—
	検出延べ項目数	236	311	299	258	271	243	210	288	208	260	2,584	0.48%
国産総計	検査検体数	251	249	230	219	220	211	151	210	164	161	2,066	—
	検出検体数	86	109	109	109	105	100	68	105	80	88	959	46.42%
	検査延べ項目数	44,663	48,962	45,794	43,494	40,962	43,352	31,404	42,598	32,947	34,852	409,028	—
	検出延べ項目数	165	247	247	213	221	198	168	237	176	225	2,097	0.51%
国産野菜	検査検体数	199	198	188	176	181	164	117	173	136	128	1,660	—
	検出検体数	58	69	77	78	73	64	46	74	61	58	658	39.64%
	検査延べ項目数	35,389	38,909	37,423	34,946	33,732	33,751	24,345	35,118	27,359	27,749	328,721	—
	検出延べ項目数	110	139	172	135	158	106	108	155	123	130	1,336	0.41%
国産果実	検査検体数	52	51	42	43	39	47	34	37	28	33	406	—
	検出検体数	28	40	32	31	32	36	22	31	19	30	301	74.14%
	検査延べ項目数	9,274	10,053	8,371	8,548	7,230	9,601	7,059	7,480	5,588	7,103	80,307	—
	検出延べ項目数	55	108	75	78	63	92	60	82	53	95	761	0.95%
輸入総計	検査検体数	101	99	81	71	70	59	50	61	44	40	676	—
	検出検体数	41	29	28	24	22	26	23	28	18	15	254	37.57%
	検査延べ項目数	17,952	19,432	15,910	14,138	13,878	12,066	10,296	12,271	8,767	8,586	133,296	—
	検出延べ項目数	71	64	52	45	50	45	42	51	32	35	487	0.37%
輸入野菜	検査検体数	54	58	45	42	38	32	29	36	27	24	385	—
	検出検体数	16	11	8	9	7	9	7	12	7	4	90	23.38%
	検査延べ項目数	9,605	11,388	8,823	8,378	7,553	6,615	5,987	7,286	5,420	5,201	76,256	—
	検出延べ項目数	41	35	19	22	24	13	11	20	11	12	208	0.27%
輸入果実	検査検体数	47	41	36	29	32	27	21	25	17	16	291	—
	検出検体数	25	18	20	15	15	17	16	16	11	11	164	56.36%
	検査延べ項目数	8,347	8,044	7,087	5,760	6,325	5,451	4,309	4,985	3,347	3,385	57,040	—
	検出延べ項目数	30	29	33	23	26	32	31	31	21	23	279	0.49%

(2) 食品衛生法違反状況

平成21年度から平成30年度の10年間の違反件数は15件（国産13検体、輸入2検体）でした。

年度	収去年月日	品名	違反農薬名	検出濃度	基準値※	産地
H21年度	H21.6.29	ほうれんそう	クロチアエジン	0.10ppm	0.02ppm	国産
	H21.9.10	ぶどう	ダイアジノン	0.5ppm	不検出 (検出限界0.1ppm)	国産
	H22.2.1	こまつな	トリフルリン	0.20ppm	0.05ppm	国産
H22年度	H22.10.5	ほうれんそう	EPN	0.04ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
H23年度	H23.12.8	きゅうり	ノバルロン	0.04ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
H24年度	H25.2.14	ふき	クロルピリホスメチル	0.15ppm	0.03ppm	国産
H25年度	H25.10.18	ピーマン	EPN	0.72ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
H26年度	—	—	—	—	—	—
H27年度	H27.9.3	だいこん	EPN	0.05ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
	H28.7.21	アスパラガス	ルフェスロン	0.02ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
H29年度	H29.2.13	オクラ	イミダクロプリド	1.2ppm	0.7ppm	輸入 (タイ)
	H29.5.23	オクラ	フルスオキシニル	0.08ppm	0.01ppm (一律基準)	国産
H30年度	H30.2.19	パプリカ	エトキサゾール	0.02ppm	0.01ppm (一律基準)	輸入 (ニュージーランド)
	H30.7.23	こら	エトフェンプロックス	0.28ppm	0.01ppm	国産
	H30.9.3	ほうれんそう	アゼフェート	8ppm	6ppm	国産
H31.2.25	しゅんぎく	ルフェスロン	0.35ppm	0.01ppm	国産	

※違反発見当時の基準値

(3) 各作物の農薬検出状況詳細

1. 野菜

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲 (ppm)
アスパラガス	国産	16	3,177	4	アゾキシストロビン	2	0.03~0.15
					テフルベンズロン	1	0.02
					トルフェンピラト	1	0.08
					ルフェスロン	1	0.02
	輸入	13	2,545	0	-	0	-

いちご	国産	62	12,005	50	アクリナトリン	4	0.01~0.04
					アセタミプリト	10	0.06~0.19
					アゾキシストロビン	9	0.02~0.15
					イプロジオン	1	0.87
					エトキサゾール	7	0.02~0.09
					クロキシムメチル	5	0.02~0.27
					シアゾファミト	1	0.01
					ジフェノコナゾール	2	0.05~0.16
					シフルフェナミト	1	0.01
					シメコナゾール	4	0.01~0.02
					チアクロプリト	1	0.11
					テトラコナゾール	1	0.34
					テフフェンピラト	3	0.10~0.17
					トリフルミゾール	8	0.02~0.06
					ビテルタノール	3	0.01~0.18
					ピラクロストロビン	1	0.44
					フェナリモル	2	0.01~0.08
					フェノブカルブ	1	0.05
					フェンピロキシメート	3	0.02~0.22
					フルシオキシニル	4	0.01~0.48
					フルフェノクスロン	2	0.03~0.05
					プロシミト	12	0.02~0.32
	ヘキシチアゾクス	3	0.03				
	ホスカリト	3	0.02~2.00				
	マイクロタニル	10	0.01~0.19				
	メパニピリム	3	0.04~0.40				
ルフェスロン	3	0.03~0.07					
シプロジニル	2	0.12~0.30					
スピノサト	1	0.08					
ピラクロストロビン	1	0.02					
フルシオキシニル	2	0.06~0.13					
ホスカリト	1	0.05					

えだまめ	国産	13	2,613	8	エトフェンプロックス	3	0.01~0.04
					ジノテフラン	1	0.06
					シペルメトリン	2	0.04~0.08
					フルフェノクスロン	2	0.02~0.04
					マラチオン	1	0.05

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
おくら	国産	20	3,990	5	アセフェート	1	0.24
					アゾキシストロビン	1	0.02
					イミダクロプリト [®]	3	0.01~0.11
					クロチアニジン	1	0.66
					クロルフルアズロン	1	0.02
					ジノテフラン	1	0.02
					フルシオキシニル	1	0.08
					ベルメリン	1	0.80
	輸入	13	2,634	11	アセフェート	1	0.48
					イミダクロプリト [®]	6	0.01~1.2
					エトフェンプロックス	1	0.02
					クロルピリホス	1	0.04
					クロルフルアズロン	2	0.04
					ジノテフラン	1	0.02
					シハロトリン	1	0.04
					シベルメリン	1	0.02
					ヘキシチアゾクス	1	0.01
					ベルメリン	2	0.02
メタミト [®] ホス	1	0.10~0.17					

かつおな	国産	6	1,196	3	アゾキシストロビン	1	0.10
					シアゾファミト [®]	1	0.46
					フェンハレレート	1	0.05
					メタラキシル	1	0.02

かぶの根	国産	17	3,402	3	アゾキシストロビン	1	0.05
					アミスルプロム	1	0.06
					クロルフェナビル	1	0.03
					ジノテフラン	1	0.06

かぶの葉	国産	17	3,402	9	アセフェート	1	0.85
					アゾキシストロビン	5	0.03~0.76
					アミスルプロム	1	1.20
					イソキサチオン	1	0.01
					クロルフェナビル	1	0.30
					シアゾファミト [®]	3	0.01~0.02
					ジノテフラン	1	0.09
					テフルトリン	2	0.01
					トルフェンピラト [®]	2	0.04~0.14

かぼちゃ (かぼちゃ, ズッキーニ)	国産	35	6,884	3	クレソキシムメチル	1	0.02
					ジノテフラン	1	0.02
					トリフルミゾール	1	0.03
					フェンプロパトリン	1	0.01
	輸入	20	4,007	8	イミダクロプリト [®]	7	0.01~0.06
					シベルメリン	1	0.01
					チアトキサム	1	0.01
					マイクロタニル	2	0.01~0.02

カリフラワー	国産	22	4,263	1	イプロジオン	1	0.05
--------	----	----	-------	---	--------	---	------

かんしょ	国産	40	7,802	0	—	0	—
------	----	----	-------	---	---	---	---

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
キャベツ	国産	72	14,244	8	アセフェート	2	0.06~0.10
					エトフェンプロックス	2	0.03~0.08
					ジノテフラン	1	0.01
					チアメキサム	2	0.01~0.02
					トルクロホスメチル	1	0.02
					ピラクロストロビン	1	0.03
					プロシトリン	1	0.02
					ホスカリド	1	0.22
	輸入	8	1,628	0	-	0	-

きゅうり	国産	66	13,196	48	アセタミプリド	7	0.08~0.27
					アセフェート	1	0.22
					アゾキシストロビン	6	0.01~0.31
					アミスルプロム	1	0.19
					イミダクロプリド	3	0.03~0.08
					イプロシオン	1	0.18
					エトフェンプロックス	2	0.02~0.09
					クレソキシムメチル	4	0.01~0.14
					クロチアニジン	1	0.01
					クロラントラニリプロール	1	0.02
					クロルフェナピル	1	0.05
					シアゾファミド	3	0.02~0.14
					ジエトフェンカルブ	4	0.01~0.05
					ジノテフラン	13	0.01~0.11
					ジフェノコナゾール	1	0.04
					シフルフェナミド	3	0.01~0.07
					チアメキサム	4	0.05~0.17
					トリフルミゾール	4	0.03~0.37
					ノバルロン	1	0.04
					フルジノキシニル	4	0.01~0.09
フルフェノクスロン	3	0.01~0.03					
プロシトリン	23	0.01~0.79					
ホスカリド	4	0.01~0.03					
メタラキシル	15	0.01~0.10					

きょうな (みずな)	国産	37	7,394	28	アセタミプリド	7	0.06~3.00
					アミスルプロム	1	0.04
					イミダクロプリド	3	0.03~0.36
					エトフェンプロックス	1	0.89
					クロチアニジン	5	0.02~0.07
					クロラントラニリプロール	1	0.02
					ジノテフラン	15	0.01~4.10
					シヘルメトリン	1	0.06
					ダイアジノン	1	0.04
					チアメキサム	9	0.01~0.35
					テフルトリン	1	0.07
					トリフルラリン	2	0.01~0.02
					ピリミホスメチル	2	0.02~0.03
					フルフェノクスロン	10	0.17~1.40
					ヘルメトリン	1	0.07
ルフェスロン	1	0.67					

ごぼう	国産	36	7,050	0	-	0	
	輸入	35	6,967	2	クロチアニジン	1	0.02
					ピフェントリン	1	0.01

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
こまつな	国産	39	7,691	30	アセタミプリド	10	0.08~0.44
					アセフェート	1	0.02
					アゾキシストロピン	1	0.19
					イミダクロプリド	1	0.01
					クロチアニジン	4	0.01~0.08
					クロラントラニリプロール	1	0.02
					クロルフェナピル	1	0.45
					シアゾファミド	5	0.01~1.6
					ジノテフラン	18	0.01~1.90
					シヘルメリン	7	0.02~0.99
					スピノサド	1	0.01
					ダイアジノン	1	0.03
					チアメキサム	7	0.01~0.79
					テフルヘンズロン	1	0.14
					トリフルラリン	2	0.02~0.20
ピリミホスメチル	2	0.10~0.43					
フルフェノクスロン	9	0.06~1.2					
レナシル	1	0.03					

さといも類	国産	38	7,555	2	アゾキシストロピン	1	0.01
	輸入	22	4,372	3	イミダクロプリド	1	0.10
					BHC	1	0.02
					イミダクロプリド	1	0.01
					クロチアニジン	1	0.01
					チアメキサム	1	0.07

しいたけ	国産	5	958	0	—	0	—
	輸入	8	1,515	0	—	0	—

しゅんぎく	国産	31	6,174	11	アセタミプリド	2	1.3~1.5
					アゾキシストロピン	1	2.2
					クロルフェナピル	2	1.1~3.6
					ジノテフラン	4	0.06~2.6
					トリフルラリン	1	0.01
					トルクロホスメチル	1	0.13
					フェンピロキシメート	1	0.01
					フルフェノクスロン	7	0.03~0.83
					プロピサミド	1	0.04
ルフェスロン	1	0.35					

しょうが	国産	18	3,579	1	シアゾファミド	1	0.16
	輸入	7	1,391	0	—	0	—

しろり	国産	12	2,414	5	アセタミプリド	1	0.29
					クレソキシムメチル	1	0.01
					ジノテフラン	2	0.01~0.04
					ヘルメリン	1	0.02

すいか	国産	28	5,563	5	エトキサゾール	1	0.04
					ジノテフラン	2	0.01~0.02
					プロシメトシン	1	0.02
					ホスカリド	1	0.02

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
セロリ	国産	21	4,227	19	アセタミプリド	1	0.07
					アゾキシストロビン	11	0.02~0.86
					イダクロプリド	4	0.03~0.62
					クレソキシムメチル	9	0.01~0.83
					クロチアニジン	1	0.02
					クロルフェナピル	7	0.08~2.6
					ジノテフラン	8	0.02~0.58
					ジフェノコナゾール	2	0.12~0.45
					スピノサド	2	0.02~0.03
					チアメキサム	5	0.01~0.04
					トリフルミゾール	1	0.18
					トルフェンピラト	2	0.13~0.14
					フルフェノクスロン	9	0.01~0.56
					プロシメトシン	1	1.20
マラチオン	3	0.02~0.23					
リニユロン	1	0.04					

その他のあぶらな科野菜 (なばな)	国産	5	999	0	—	0	—
----------------------	----	---	-----	---	---	---	---

その他のうり科野菜 (ゴーヤ, とうがん, にがうり)	国産	19	3,865	5	イダクロプリド	2	0.1~0.19
					エトフェンプロックス	1	0.06
					トリフルミゾール	1	0.23
					ベルメトリン	1	0.05
					メタラキシル	1	0.01

その他のきく科野菜 (ふき, つわぶき)	国産	14	2,671	7	イダクロプリド	1	0.14
					エトフェンプロックス	2	0.06
					クロルピリホスメチル	1	0.15
					クロルフェナピル	2	0.02~0.82
					トリフルミゾール	3	0.02~0.19
					トルクロホスメチル	1	0.02
					フルジノキソニル	1	0.02
					プロシメトシン	1	0.05
					マイクロブタニル	1	0.04
					(チコリ, トレビス)	輸入	15
ホスカリド	4	0.01~0.02					

その他のなす科野菜 (ししとう)	国産	8	1,595	1	クロルフルアズロン	1	0.02
					ベルメトリン	1	0.02
					アセタミプリド	1	0.15
	輸入	2	378	1	クレソキシムメチル	1	0.01
					スピノサド	1	0.08
					ピリプロキシフェン	1	0.03
					マイクロブタニル	1	0.18

その他のハーブ (しそ, 赤しそ)	国産	10	2,009	5	クロラントラニプロール	1	0.02
					シベルメトリン	1	0.18
					フルフェノクスロン	1	0.02
					ベルメトリン	2	0.03~0.19
					ホスカリド	1	0.03
	(エシャロット, シャロット)	輸入	7	1,327	0	—	0

その他の野菜 (レンコン, 空心菜) (ベビーコーン)	国産	24	4,652	0	—	0	—
	国産	1	197	0	—	0	—

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
その他のゆり科野菜 (らっきょう)	国産	8	1,619	0	—	0	—

そらまめ	国産	2	413	1	イダククロプリド	1	0.04
------	----	---	-----	---	----------	---	------

だいこん類の根	国産	55	10,884	7	EPN	1	0.05
					ジノテフラン	1	0.03
					フルフェノクスロン	1	0.02
					ホスチアゼート	4	0.01~0.09

だいこん類の葉 (こな)	国産	2	396	1	アセタミプリド	1	0.12
-----------------	----	---	-----	---	---------	---	------

たまねぎ	国産	50	9,873	1	プロシトシ	1	0.01
	輸入	62	12,371	1	メタキシル	1	0.01

チンゲンサイ	国産	26	5,136	23	アセタミプリド	2	0.07~0.16
					クロチアニジン	8	0.02~0.26
					クロラントラニリプロール	2	0.52~0.74
					シアゾファミド	3	0.04~0.30
					ジノテフラン	10	0.01~1.7
					シペルメリン	4	0.02~0.58
					ダミノジット	1	0.01
					チアトキサム	12	0.01~1.2
					テフルベンスロン	1	0.01
					フルフェノクスロン	4	0.01~0.29
ルフェスロン	1	0.05					

なす	国産	75	14,810	39	アセタミプリド	3	0.09~0.25
					アゾキシストロビン	1	0.03
					アミスルプロム	1	0.04
					イダククロプリド	2	0.01~0.02
					イプロジオン	2	0.15~0.49
					イントキサカルブ	1	0.01
					クロチアニジン	2	0.03~0.07
					クロルフェナピル	5	0.01~0.09
					シアゾファミド	1	0.02
					ジエトフェンカルブ	2	0.01~0.05
					ジノテフラン	8	0.01~0.37
					ジフェノコナゾール	1	0.03
					シフルフェナミド	1	0.03
					スピノサド	1	0.06
					テブフェンピラト	1	0.02
					トリフルミゾール	2	0.03~0.05
					トルフェンピラト	1	0.02
					ピラクロストロビン	2	0.01~0.06
					ピリミホスメチル	1	0.02
					フェンプロパトリン	1	0.13
					フルジオキシニル	5	0.01~0.07
					フルフェノクスロン	4	0.03~0.11
					プロシトシ	11	0.02~0.77
ホスカリド	7	0.03~0.25					
マイクロタニル	1	0.03					
ルフェスロン	1	0.03					

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
トマト (トマト, ミニトマト)	国産	94	18,783	66	アセタミプリド	5	0.08~0.20
					アゾキシストロピン	4	0.02~0.06
					イミダクロプリド	3	0.01~0.02
					イプロンオン	3	0.07~0.26
					クロチアニジン	6	0.01~0.07
					シアゾファミド	3	0.01~0.09
					ジエトフェンカルブ	6	0.01~0.02
					ジノテフラン	15	0.01~0.40
					シヘルメリン	1	0.04
					チアクロプリド	2	0.02
					チアトキサム	3	0.01~0.06
					テフルヘンズロン	4	0.01~0.10
					トリフルミゾール	9	0.01~0.18
					トルフェンピラト	2	0.16~0.30
					ピラクロストロピン	2	0.01~0.12
					ピリダベン	10	0.01~0.38
					フェンピロキシメート	4	0.01~0.03
					プロプロフェジン	6	0.02~0.06
					フルジノキシニル	6	0.04~0.12
					フルフェノクスロン	6	0.02~0.23
					プロシメト	1	0.03
					ホスカリド	10	0.02~0.49
					マイクロブタニル	1	0.13
メハニピリム	2	0.04~0.37					
メタラキシル	3	0.03~0.06					
ルフェヌロン	5	0.01~0.06					
輸入	2	356	1	アセタミプリド	1	0.08	
				トリフルミゾール	1	0.10	
				ピラクロストロピン	1	0.05	
				ピリプロキシフェン	1	0.10	

にら	国産	39	7,715	26	アセタミプリド	5	0.07~5.30
					アゾキシストロピン	4	0.06~2.4
					イミダクロプリド	1	0.03
					エトフェンプロックス	1	0.28
					クレソキシムメチル	11	0.03~7.3
					クロチアニジン	3	0.05~0.19
					シヘルメリン	10	0.01~0.51
					ジメエート	3	0.03~0.29
					テブコナゾール	1	0.40
					トリフルミゾール	1	0.50
					フルジノキシニル	1	0.97
					マイクロブタニル	1	0.09

にんじん	国産	55	10,755	2	ホスカリド	1	0.02
					ホスチアゼート	1	0.02
	輸入	39	7,804	6	クロルピリホス	1	0.01
					テブコナゾール	3	0.02
					トリフルラリン	4	0.02~0.07
					ホスチアゼート	1	0.09
マイクロブタニル	1	0.07					

にんにく	国産	12	2,372	0	—	0	—
	輸入	18	3,497	0	—	0	—

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
ねぎ (青ねぎ, 白ねぎ)	国産	79	15,642	41	アゾキシストロビン	7	0.01~0.69
					イプロジオン	1	0.79
					エトフェンプロックス	2	0.07~0.09
					クレソキシムメチル	1	0.25
					クロチアニジン	17	0.01~0.38
					クロラントラニリプロール	2	0.04~0.30
					シアゾファミド	2	0.01~0.11
					ジノテフラン	20	0.01~1.20
					シヘルメトリン	15	0.03~0.56
					ジメエート	1	0.37
					スピノサド	2	0.01~0.16
					チアメキサム	18	0.01~1.5
					トルフェンピラト	1	0.34
					フルトラニル	4	0.04~0.14
					フルフェノクスロン	1	0.15
					プロシメトリン	1	0.08
					ベルメトリン	6	0.01~1.0
					マラチオン	2	0.02~0.05
	ルフェヌロン	1	0.02				
	輸入	42	8,324	6	イミダクロプリト	1	0.03
				クロチアニジン	2	0.02~0.08	
				チアメキサム	3	0.02~0.25	
				テブコナゾール	1	0.02	
				プロシメトリン	1	0.02	

はくさい	国産	54	10,616	23	アセフェート	1	0.05
					アゾキシストロビン	1	0.02
					イミダクロプリト	1	0.01
					イントキサカルブ	1	0.04
					エトフェンプロックス	1	0.01
					クレソキシムメチル	2	0.11~0.19
					ジノテフラン	4	0.01~0.02
					シヘルメトリン	3	0.03~0.15
					チアメキサム	3	0.03
					トルクロホスメチル	1	0.04
					トルフェンピラト	1	0.16
					ピラクロストロビン	2	0.01~0.13
					フェンハレレート	10	0.02~0.15
					フルフェノクスロン	1	0.01
					ホスカリト	6	0.01~0.46
					メタラキシル	3	0.01~0.04
					メキシフェノジト	1	0.07
					ルフェヌロン	1	0.02
	輸入	1	203	0	-	0	-

パセリ	国産	6	1,151	5	イミダクロプリト	2	0.06~0.99
					イプロジオン	1	0.51
					クレソキシムメチル	2	0.02~9.9
					クロチアニジン	1	0.01
					スピノサド	2	0.50~0.64
					トリフルミゾール	2	0.01~0.11
					フルフェノクスロン	2	0.01~1.9

ばれいしょ	国産	52	10,307	6	アセフェート	1	0.10
					イミダクロプリト	3	0.01~0.02
					プロシメトリン	1	0.02
					メタラキシル	3	0.01~0.03

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
ピーマン (ピーマン, パプリカ)	国産	60	11,900	53	EPN	1	0.72
					アセタミプリト	9	0.07~0.99
					アセフェート	1	0.08
					アゾキシストロピン	13	0.02~0.35
					イミダクロプリト	4	0.01~0.17
					イプロシオン	3	0.09~1.0
					イントキサカルブ	2	0.04~0.12
					エトフェンプロックス	2	0.17~0.53
					クレソキシムメチル	10	0.02~0.87
					クロチアニジン	6	0.01~0.29
					クロルフェナピル	4	0.01~0.25
					クロルフルアズロン	3	0.02~0.08
					シアゾファミト	1	0.15
					ジノテフラン	11	0.01~0.38
					シフルフェナミト	4	0.01~0.04
					シヘルメトリン	1	0.06
					スピノサト	2	0.01~0.11
					チアメキサム	1	0.33
					トリフルミゾール	11	0.01~0.30
					ノバルロン	2	0.01~0.02
					ピラクロストロピン	1	0.21
					ピリダベン	1	0.18
					フェナリモル	4	0.02~0.03
					フルフェノクスロン	7	0.02~0.15
					プロシトシ	25	0.01~1.9
					ベルメトリン	3	0.02~0.27
					ホスカリト	6	0.01~0.78
	マイクロブタニル	11	0.01~0.22				
	メタラキシル	2	0.02~0.04				
	ルフェスロン	8	0.01~0.08				
	アクリナトリン	2	0.03~0.04				
	アセタミプリト	8	0.06~0.51				
	アゾキシストロピン	6	0.01~0.24				
	イミダクロプリト	11	0.01~0.13				
	イプロシオン	2	0.22~0.24				
	イントキサカルブ	4	0.01~0.03				
	エトキサゾール	1	0.02				
	クレソキシムメチル	2	0.01~0.06				
	クロチアニジン	8	0.01~0.06				
	クロラントラニリプロール	1	0.01				
	クロルフェナピル	5	0.02~0.14				
	ジノテフラン	7	0.04~0.35				
	スピノサト	5	0.01~0.03				
	チアクロプリト	3	0.03~0.08				
チアメキサム	9	0.01~0.09					
テトラコナゾール	12	0.02~0.94					
テフフェンピラト	2	0.06~0.12					
テルタメトリン	1	0.01					
ノバルロン	1	0.03					
ピラクロストロピン	4	0.02~0.24					
ピフェトリン	1	0.02					
ピリダベン	6	0.01~0.16					
ピリプロキシフェン	2	0.05~0.09					
フルフェノクスロン	1	0.02					
プロシトシ	3	0.02~0.85					
ホスカリト	12	0.01~0.35					
メキシフェノジト	2	0.02~0.03					
ルフェスロン	2	0.04~0.05					
輸入	44	8,634	34				

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
ブロッコリー	国産	40	7,970	2	フルフェノクスロン	1	0.04
					ホスカリド	1	0.03
					メタラキシル	1	0.01
	輸入	7	1,378	1	イタダクロブリン	1	0.02

ほうれんそう	国産	67	13,199	37	EPN	1	0.04
					アセタミプリド	3	0.16~0.37
					アセフェート	1	8
					アミスルプロム	1	0.10
					イタダクロブリン	9	0.01~0.98
					クロチアニジン	11	0.01~0.85
					クロラントラニリプロール	1	0.14
					シアゾファミド	7	0.13~5.2
					ジノテフラン	12	0.01~1.8
					シヘルメリン	3	0.02~0.81
					スピノサド	1	0.74
					チアメキサム	3	0.05~0.60
					テフルベンスロン	2	0.05~0.13
					フェンピロキシメート	2	0.03~0.27
					フルフェノクスロン	18	0.01~3.1
					メタミトホス	1	0.40
レナシル	1	0.01					

未成熟いんげん (いんげん, さやいんげん, ジャンボいんげん)	国産	22	4,427	12	アゾキシストロビン	4	0.01~0.47
					イタダクロブリン	1	0.01
					エトフェンプロックス	3	0.01~0.05
					クロラントラニリプロール	2	0.01~0.12
					ジノテフラン	1	0.02
					フェンピロキシメート	1	0.13
					フルジノキソニル	5	0.02~0.33
					フルフェノクスロン	3	0.03~0.15
					プロシメトリン	1	0.03
	輸入	1	199	1	イプロジオン	1	0.11

未成熟えんどう (さやえんどう, スナップえん どう, きぬさや)	国産	16	3,208	5	エトフェンプロックス	1	0.01
					クロルフェナビル	1	0.02
					ジノテフラン	3	0.04~0.60
					トリフルミゾール	1	0.04
					トルフェンピラト	1	0.02
	輸入	2	356	2	クロルフルアズロン	1	0.02
	フルフェノクスロン	1	0.02				

メロン類果実	国産	27	5,458	9	イタダクロブリン	1	0.01
					エトフェンプロックス	1	0.01
					クロチアニジン	1	0.02
					ジノテフラン	3	0.02~0.20
					プロシメトリン	2	0.02~0.04
					メタラキシル	2	0.02~0.03
	輸入	14	2,800	6	イタダクロブリン	6	0.02~0.03

やまいも (やまいも, ながいも)	国産	23	4,591	2	アセフェート	2	0.05~0.13
----------------------	----	----	-------	---	--------	---	-----------

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲(ppm)
レタス (レタス, サニーレタス, リーフレタス, グリーンリーフレタス)	国産	65	12,926	36	アセタミプリド	6	0.06~0.30
					アセフェート	1	0.02
					アゾキシストロピン	2	0.01~0.47
					イミダクロプリド	3	0.01~0.58
					イプロシオン	1	0.53
					クロチアニジン	5	0.01~1.30
					クロマフェノシド	1	0.02
					クロラントラニリプロール	2	0.01
					シアゾファミド	4	0.02~0.85
					ジノテフラン	4	0.01~0.56
					チアメキサム	13	0.01~0.19
					テフルベンスロン	2	0.21~0.51
					フェンハレレート	3	0.02~1.4
					フルバリネート	1	0.82
					フルフェノクスロン	2	0.05~0.07
					ホスカリド	3	0.01~0.19
マラチオン	1	0.06					

2. 果実

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲 (ppm)
アボガド	輸入	4	769	0	—	0	—

うめ	国産	13	2,602	12	アセタミプリド	1	0.10
					クレソキシムメチル	8	0.01~1.50
					ジノテフラン	2	0.01~0.07
					ジフェノコナゾール	8	0.01~0.11
					フルハリネート	2	0.03~0.06
					ペルメトリン	1	1.20

おうとう	国産	3	615	3	アクリナトリン	1	0.02
					アゾキシストロビン	1	0.27
					イプロジオン	1	0.12
					クロチアニジン	1	0.30
					ジノテフラン	1	0.30
					ジフェノコナゾール	2	0.04
					シペルメトリン	1	0.04
					テフコナゾール	1	0.15
					ピラクロストロビン	2	0.03~0.08
					ビフェントリン	1	0.04
	プロシメドン	1	0.06				
	ボスカルト	2	0.09~0.13				
	輸入	2	415	2	キノキシフェン	1	0.05
					シハロトリン	1	0.05
					テフコナゾール	1	0.19
					トリフルミゾール	2	0.20~0.35
ピラクロストロビン					1	0.03	
フェンプロパトリン					2	0.45~0.46	
ボスカルト	1	0.05					
マイクロタニル	1	0.03					

オレンジ (オレンジ, ネーブルオレンジ)	国産	3	590	3	イミダクロプリド	1	0.02
					クロチアニジン	1	0.01
					テトラジホシ	1	0.02
					トルフェンピラト	1	0.05
					ヒリダヘン	1	0.01
					フェントエート	1	0.02
					ヘキシチアゾクス	1	0.02
					メチダチオン	3	0.03~0.17
	輸入	45	8,741	28	イミダクロプリド	1	0.05
					オキサジキシル	1	0.03
					クロチアニジン	1	0.01
					クローピリホス	25	0.01~0.57
					ジウロン	1	0.01
					シマジン	2	0.02~0.04
					ピラクロストロビン	2	0.01~0.09
					ヒリプロキシフェン	2	0.03~0.04
					ヒリメタニル	1	2.3
					フェンプロパトリン	2	0.02~0.03
					ブプロフェジン	1	0.02
メチダチオン	1	0.03					

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲
かき	国産	38	7,608	34	アクリナリン	1	0.01
					アセタミプリド	1	0.06
					クレゾキシムメチル	10	0.01~0.04
					クロチアニジン	2	0.01
					ジノテフラン	28	0.01~0.17
					シハロリン	1	0.02
					ジフェノコナゾール	3	0.01~0.04
					シヘルメトリン	6	0.02~0.05
					シラフルオフェン	9	0.02~0.09
					チアトキサム	3	0.01~0.02
					トリフロキシストロビン	2	0.01~0.04
					ピフェントリン	2	0.02
					フェントロチオン	1	0.04
					フェンハレレート	2	0.01~0.02
					フルバリネート	1	0.01
ボスカリド	2	0.01~0.02					

キウイ	国産	16	3,062	13	アセタミプリド	2	0.05~0.08
					クレゾキシムメチル	12	0.01~0.17
					ジノテフラン	4	0.01~0.09
輸入	17	3,364	0	—	0	—	

くり	国産	2	415	0	—	0	—
----	----	---	-----	---	---	---	---

グレープフルーツ	輸入	62	12,146	54	アゾキシストロビン	2	0.02~0.03
					イミダクロプリド	11	0.01~0.06
					クロルピリホス	21	0.01~0.10
					クロルフェナピル	1	0.03
					ジフルベンズロン	7	0.01~0.05
					シヘルメトリン	4	0.02~0.04
					ピラクロストロビン	34	0.01~0.10
					ピリダベン	2	0.02
					ピリプロキシフェン	12	0.02~0.04
					ピリメタニル	2	0.28~0.62
					フェンブコナゾール	1	0.01
					フェンプロバトリン	6	0.010.09
					ブプロフェジン	1	0.02
					プロチオホス	1	0.05
メチダチオン	2	0.02~0.04					

すもも	国産	15	3,027	9	アゾキシストロビン	1	0.08
					クロラントラニプロール	1	0.03
					ジノテフラン	1	0.04
					シヘルメトリン	1	0.02
					チアクロプリド	1	0.06
					テブコナゾール	1	0.02
					フェンブコナゾール	1	0.07
					ブプロフェジン	4	0.03~0.13
					ヘルメトリン	2	0.07~0.08

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲
西洋なし	国産	7	1,401	7	アセタミプリド [*]	3	0.09~0.25
					アゾキシストロピン	2	0.02~0.10
					クレソキシムメチル	4	0.01~0.33
					クロチアニジン	1	0.09
					クロルピリホス	2	0.02~0.12
					ジノテフラン	2	0.02
					シハロリン	1	0.02
					シヘルメトリン	2	0.01~0.09
					チアクロプリド [*]	1	0.03
					トリフロキシストロピン	4	0.02~0.15
					ビフェントリン	1	0.02
					ピンクロゾリン	1	0.01
					フェンプロパトリン	6	0.08~0.14
ボスカリト [*]	3	0.01					

その他の果実 (いちじく)	国産	17	3,421	10	アクリナトリン	2	0.02~0.03
					アセタミプリド [*]	4	0.05~0.13
					アゾキシストロピン	4	0.01~0.03
					クロチアニジン	2	0.01~0.02
					クロルフェナピル	1	0.02
					テブフェンピラト [*]	1	0.05
					フェンピロキシメート	1	0.09
					ヘキシチアゾクス	1	0.01
(ドラゴンフルーツ, ライチ, マンゴスチン)	輸入	5	993	1	アゾキシストロピン	1	0.06
					ジフルベンズロン	1	0.04

その他のかんきつ類 (かぼす, はっさく, ゆず, い よかん, デコポン, あまくさ, 清見, きんかん)	国産	56	10,831	46	アセタミプリド [*]	3	0.07~0.15
					エトキサゾール	1	0.03
					クレソキシムメチル	13	0.01~0.14
					クロチアニジン	2	0.01~0.02
					クロルピリホス	2	0.02~0.03
					クロルフェナピル	2	0.01~0.04
					ジノテフラン	8	0.01~0.15
					シプロジニル	1	0.02
					スピロジクロフェン	5	0.02~0.06
					チアメキサム	1	0.02
					テトラジホシ	1	0.03
					テブコナゾール	1	0.03
					トルフェンピラト [*]	3	0.04~0.07
					ピラクロストロピン	1	0.01
					ビフェントリン	3	0.01~0.02
					ピリダヘン	10	0.010.18
					フェントロチオン	1	0.03
					フェントエート	5	0.02~0.18
					フェンピロキシメート	3	0.01~0.06
					フェンプロパトリン	4	0.030.12
ブプロフェシン	1	0.01					
ボスカリト [*]	1	0.02					
マラチオン	1	0.23					
メチダチオン	31	0.01~0.49					
タンジェリン, スウィーティ	輸入	2	375	0	-	0	-

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲
なつみかんの果実 全体	国産	14	2,629	10	クレソキシムメチル	2	0.02~0.03
					シアゾファミド	1	0.05
					ジノテフラン	1	0.06
					ピフェントリン	1	0.01
					ピリダベン	1	0.01
					フェンピロキシメート	1	0.02
					メチダチオン	9	0.02~0.39

日本なし	国産	34	6,852	32	アクリナトリン	1	0.03
					アセタミプリド	3	0.07~0.09
					アゾキシストロピン	7	0.02~0.20
					イミダクロプリド	2	0.01~0.02
					クレソキシムメチル	18	0.01~0.29
					クロチアニジン	5	0.01~0.13
					クロラントラニプロール	1	0.03
					クロルピリホス	1	0.01
					クロルフェナピル	4	0.01~0.03
					ジノテフラン	11	0.02~0.23
					ジフェノコナゾール	7	0.01~0.04
					シプロジニル	3	0.02~0.07
					シベルメトリン	5	0.01~0.02
					チアメキサム	2	0.02~0.04
					テブコナゾール	6	0.03~0.14
					トルフェンピラト	3	0.01~0.02
					ピラクロストロピン	9	0.01~0.15
					ピフェントリン	8	0.01~0.07
					フェントロチオン	2	0.02~0.20
					フェンハレレート	1	0.02
					フェンプロパトリン	3	0.03~0.13
ブプロフェジン	2	0.01~0.02					
フルハリネート	1	0.02					
プロチオホス	8	0.02~0.06					
ペルメトリン	7	0.01~0.06					
ボスカリト	12	0.01~0.23					
メチダチオン	2	0.01~0.04					

パイナップル	輸入	28	5,461	6	トリアジメノール	3	0.04~0.28
					トリアジメホン	2	0.05~0.33
					トリフルミゾール	5	0.02~0.17

バナナ	輸入	69	13,607	44	アゾキシストロピン	9	0.02~0.18
					クロチアニジン	1	0.01
					クロルピリホス	39	0.01~0.09
					クロルフェナピル	2	0.03~0.04
					チアメキサム	1	0.02
					デルタメトリン	1	0.02
					トリブホス	1	0.01
					ピフェントリン	2	0.01
					フェンプロピモルフ	1	0.01
					プロモホス	1	0.01
					マイクロブタニル	2	0.10~0.39

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲
パパイヤ	輸入	7	1,317	1	ブプロフェシン	1	0.08

びわ	国産	7	1,392	0	—	0	—
----	----	---	-------	---	---	---	---

ぶどう (ぶどう, 巨峰, デラウェア)	国産	42	8,350	37	アセタミプリド	4	0.08~0.31
					アセフェート	7	0.01~0.28
					アゾキシストロビン	15	0.01~0.34
					アミスルフロム	1	0.05
					イダクロプリド	2	0.02~0.10
					エトキサゾール	1	0.09
					クレソキシムメチル	6	0.01~0.06
					クロチアニジン	3	0.05~0.12
					クロルフェナピル	6	0.01~0.12
					シアゾファミド	1	0.39
					シノテフラン	7	0.01~0.17
					シフルトリン	8	0.01~0.15
					シプロジニル	10	0.02~0.68
					シメモルフ	1	0.07~0.09
					ダミノジド	1	0.5
					チアクロプリド	1	0.07~0.09
					テブコナゾール	7	0.01~0.05
					ピラクロストロビン	1	0.09
					ピフェントリン	2	0.02~0.03
					フルジオキシニル	6	0.01~0.24
					フルハリネート	1	0.15
	ヘルメトリン	6	0.02~0.09				
	ヘルメトリン	4	0.03~0.24				
	メタミトホス	1	0.03				
	輸入	5	1,030	5	イダクロプリド	3	0.04~0.15
					キノキシフェン	1	0.02
					シプロジニル	3	0.06~0.50
スピロジクロフェン					1	0.08~0.57	
ピラクロストロビン					1	0.02	
フルジオキシニル					3	0.04~0.22	
ボスカリド					3	0.05~0.13	
ホスメット	1	0.71					

マンゴー	国産	1	177	1	イダクロプリド	1	0.03
	輸入	6	1,204	3	アゾキシストロビン	2	0.08~0.21
					イダクロプリド	1	0.01
					クロルフェナピル	1	0.10
					トリフロキシストロビン	1	0.01
					フェンチオン	1	0.03
					プロモプロピレート	1	0.07
					ヘキサコナゾール	1	0.01

みかん	国産	71	14,022	27	エトキサゾール	1	0.02
					クロチアニジン	1	0.02
					シノテフラン	26	0.01~0.18
					ピリダベン	1	0.02

品名	産地	検体数	延べ検査項目数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出農薬数	検出範囲
もも	国産	29	5,745	21	アクリナトリン	2	0.01~0.03
					アセタミプリド	6	0.08~0.57
					イミダクロプリド	1	0.05
					イプロジオン	1	0.08~0.57
					クレソキシムメチル	5	0.03~0.14
					クロチアニジン	2	0.02~0.05
					ジノテフラン	11	0.01~0.26
					チアクロプリド	2	0.04~0.13
					テトラコナゾール	1	0.03
					テブコナゾール	2	0.01~0.02
					ブプロフェジン	4	0.01~0.17
					ヘキサコナゾール	3	0.01~0.02
					ボスカリド	3	0.02~0.04
メチダチオン	1	0.03					

ライム	輸入	4	777	0	—	0	—
-----	----	---	-----	---	---	---	---

りんご	国産	34	6,777	32	アセタミプリド	6	0.06~0.10
					クレソキシムメチル	8	0.01~0.07
					クロラントラニリプロール	2	0.01~0.02
					クロルピリホス	4	0.01~0.04
					ジノテフラン	5	0.01~0.07
					シハロトリン	5	0.01~0.02
					シフルトリン	1	0.01
					ジフルヘンズロン	4	0.01~0.09
					シプロジニル	3	0.01~0.02
					シヘルメトリン	13	0.02~0.10
					チアクロプリド	7	0.01~0.04
					テフルヘンズロン	1	0.04
					トリフロキシストロビン	22	0.01~0.15
					ピラクロストロビン	7	0.01~0.02
					ピフェントリン	1	0.02
ピリダヘン	1	0.02					
フェンプロパトリン	9	0.02~0.18					
ボスカリド	23	0.01~0.07					

レモン	国産	4	791	4	クレソキシムメチル	2	0.01~0.06
					ピリダヘン	2	0.03
					メチダチオン	3	0.06~0.31
					イミダクロプリド	2	0.01~0.05
	輸入	35	6,841	20	クロルピリホス	17	0.01~0.25
					シヘルメトリン	1	0.03
					ピラクロストロビン	1	0.01
					フェンプロパトリン	2	0.01~0.02
					ヘキシチアゾクス	1	0.01
					ホスメット	1	0.04

IV 福岡市食品衛生成分規格指導基準

食品、添加物等の規格基準（以下「法定基準」という。）に規定のない食品等の成分規格について指導基準を設け、食品衛生監視及び営業者の自主管理を強化し、食品の衛生的品質の向上及び食中毒の防止を図ることを目的とする。

令和元年4月1日現在

食品区分		基準項目	細菌数 (/g以下) ※1	大腸菌群	E. coli	黄色ぶどう 球 菌
そうざい		加熱調理食品	100,000	陰性		陰性
		未加熱調理食品	100,000			
		調理ご飯	100,000	陰性		
		調理パン	100,000	陰性		
めん類		生めん	3,000,000		陰性	陰性
		ゆでめん	100,000	陰性		陰性
豆腐		包装豆腐	1,000	陰性		
		その他の豆腐	100,000	陰性		
魚肉練り製品		魚肉ハム、魚肉ソーセージ、 特殊包装かまぼこ ※2	1,000			
		その他の魚肉練り製品 ※2	100,000			
		生菓子	100,000	陰性		陰性
		調理鮮魚介類（生食用） ※2	100,000			
		ソフトクリーム	100,000	陰性		陰性
		清涼飲料水 （あらかじめ容器包装されてい ないもの）		陰性		

（注）

- ※1 通常醗酵工程がある食品及び生菌を添加する食品には細菌数の基準は適用しない。
- ※2 魚肉練り製品（基準項目：大腸菌群）、調理鮮魚介類（生食用）（基準項目：腸炎ビブリオ）では法定基準（成分規格）が定められているため、留意すること。

V 検査方法と定量下限

1 細菌検査・理化学検査

区 分		定 量 下 限	試 験 法	
細菌検査	細菌数	3000/g	標準寒天培地法	
	大腸菌群	—	テリコシコート寒天培地法	
	E. coli最確数	18/100g	EC培地法	
	大腸菌 (E. coli) ※	—	前培養後増菌培養法	
	腸管出血性大腸菌 O26 ※	—	リアルタイムPCR法	
	腸管出血性大腸菌 O103 ※	—		
	腸管出血性大腸菌 O111 ※	—		
	腸管出血性大腸菌 O121 ※	—		
	腸管出血性大腸菌 O145 ※	—		
	腸管出血性大腸菌 O157 ※	—		
	腸炎ビブリオ直接法	—	TCBS寒天培地法	
	腸炎ビブリオ最確数	3.0/g	アルカリペプトン最確数法	
	ビブリオ属菌	—	TCBS寒天培地法	
	サルモネラ属菌	—	前培養後増菌培養法	
理化学検査	防ばい剤	オルトフェニルフェノール	0.0001g/kg	高速液体クロマトグラフ法
		ジフェニル	0.0005g/kg	
		アゾキシストロビン	0.00001g/kg	LC-MS/MS法
		イマザリル	0.00001g/kg	
		チアベンダゾール	0.00001g/kg	
		ピリメタニル	0.00001g/kg	
		フルジオキシニル	0.00001g/kg	
		プロピコナゾール	0.00001g/kg	
	ヒスタミン	50mg/kg	高速液体クロマトグラフ法	
	貝毒(麻痺性)	1.75MU/g	マウス毒性試験法	
	フグ毒(テトロドトキシン)	0.01 μg/g	LC-MS/MS法	
	魚種鑑別	—	等電点電気泳動法	
	残留塩素	0.1mg/L	DPD比色法	
	揮発性塩基窒素 (VBN)	1mg%	コンウェイユニット分析法	
水分活性 (Aw)	—	コンウェイユニット分析法		

※福岡市環境局保健環境研究所にて検査を実施

区 分		定量下限	試 験 法	
理 化 学 検 査	動 物 用	オキシテトラサイクリン	0.02mg/kg	LC-MS/MS法
		テトラサイクリン	0.02mg/kg	
		クロルテトラサイクリン	0.02mg/kg	
		スピラマイシン	0.01mg/kg	
		スルファジアジン	0.01mg/kg	
		レバミゾール	0.01mg/kg	
		リンコマイシン	0.01mg/kg	
		アルベンダゾール	0.01mg/kg	
		スルファチアゾール	0.01mg/kg	
	薬 品	スルファピリジン	0.01mg/kg	
		トリメトプリム	0.01mg/kg	
		スルファメラジン	0.01mg/kg	
		オルメトプリム	0.01mg/kg	
		チアンフェニコール	0.01mg/kg	
		スルファジミジン	0.01mg/kg	
		スルファモノメトキシ	0.01mg/kg	
		スルフィソゾール	0.01mg/kg	
		トリクロロン	0.01mg/kg	
		スルファメトキシピリダジン	0.01mg/kg	
		スルファクロルピリダジン	0.01mg/kg	
		スルファドキシ	0.01mg/kg	
		スルファメトキサゾール	0.01mg/kg	
		フロルフェニコール	0.01mg/kg	
		ミロキサシン	0.01mg/kg	
	オキシリニック酸	0.01mg/kg		
	エリスロマイシン	0.01mg/kg		
	エトパベート	0.01mg/kg		
	スルファキノキサリン	0.01mg/kg		
	スルファジメトキシ	0.01mg/kg		
	ナリジクス酸	0.01mg/kg		
	スルファニトラン	0.01mg/kg		
	ジョサマイシン	0.01mg/kg		
	ピロミド酸	0.01mg/kg		
ニフルスチレン酸ナトリウム	0.01mg/kg			
プラジクアンテル	0.01mg/kg			
ノボビオシン	0.01mg/kg			
酢酸メレンゲスチロール	0.01mg/kg			

2 理化学検査（残留農薬検査）

測定項目		定量下限	試験法	測定項目		定量下限	試験法
1	E P N	0.01	GC-MS/MS	54	クロルフェンビンホス	0.01	GC-MS/MS
2	XMC	0.01	GC-MS/MS	55	クロルブファム	0.01	GC-MS/MS
3	アクリナトリン	0.01	GC-MS/MS	56	クロルプロファム	0.01	GC-MS/MS
4	アザコナゾール	0.01	GC-MS/MS	57	クロロクシロン	0.01	LC-MS/MS
5	アセタミプリド	0.05	GC-MS/MS	58	クロロベンジレート	0.01	GC-MS/MS
6	アゾキシストロビン	0.01	LC-MS/MS	59	シアゾファミド	0.01	LC-MS/MS
7	アトラジン	0.01	GC-MS/MS	60	シアナジン	0.01	LC-MS/MS
8	アメトリン	0.01	GC-MS/MS	61	シアンホス	0.01	GC-MS/MS
9	アラクロール	0.01	LC-MS/MS	62	ジウロン	0.01	LC-MS/MS
10	アラマイト	0.01	LC-MS/MS	63	ジエトフェンカルブ	0.01	GC-MS/MS
11	イサゾホス	0.01	GC-MS/MS	64	シクロエート	0.01	LC-MS/MS
12	イソキサチオン	0.01	GC-MS/MS	65	ジクロシメット	0.01	LC-MS/MS
13	イソフェンホス	0.01	GC-MS/MS	66	ジクロフェンチオン	0.01	LC-MS/MS
14	イソプロチオラン	0.01	GC-MS/MS	67	ジノテフラン	0.01	LC-MS/MS
15	イプロバリカルブ	0.01	LC-MS/MS	68	シハロトリン	0.01	GC-MS/MS
16	イプロベンホス	0.01	GC-MS/MS	69	ジフェナミド	0.01	GC-MS/MS
17	イマザリル	0.01	LC-MS/MS	70	ジフェノコナゾール	0.01	GC-MS/MS
18	イミダクロプリド	0.01	LC-MS/MS	71	シフルトリン	0.01	GC-MS/MS
19	インダノファン	0.01	LC-MS/MS	72	シフルフェナミド	0.01	LC-MS/MS
20	インドキサカルブ	0.01	LC-MS/MS	73	ジフルフェニカン	0.01	GC-MS/MS
21	ユニコナゾールP	0.01	GC-MS/MS	74	ジフルベンズロン	0.01	LC-MS/MS
22	エスプロカルブ	0.01	GC-MS/MS	75	シプロコナゾール	0.01	GC-MS/MS
23	エチオン	0.01	GC-MS/MS	76	シプロジニル	0.01	LC-MS/MS
24	エディフェンホス	0.01	GC-MS/MS	77	シベルメトリン	0.01	GC-MS/MS
25	エトキサゾール	0.01	LC-MS/MS	78	シマジン	0.01	GC-MS/MS
26	エトフェンプロックス	0.01	GC-MS/MS	79	シメコナゾール	0.01	LC-MS/MS
27	エトプロホス	0.01	GC-MS/MS	80	ジメタメトリン	0.01	GC-MS/MS
28	エトリムホス	0.01	GC-MS/MS	81	ジメチピン	0.01	GC-MS/MS
29	エポキシコナゾール	0.01	LC-MS/MS	82	ジメテナミド	0.01	LC-MS/MS
30	エンドスルファン	0.01	GC-MS/MS	83	ジメトエート	0.01	LC-MS/MS
31	オキサジアゾン	0.01	GC-MS/MS	84	シメトリン	0.01	LC-MS/MS
32	オキサジキシル	0.01	GC-MS/MS	85	ジメピベレート	0.01	GC-MS/MS
33	オキサジクロメホン	0.01	LC-MS/MS	86	スピロキサミン	0.01	LC-MS/MS
34	オキサミル	0.01	LC-MS/MS	87	スピロジクロフェン	0.01	GC-MS/MS
35	オキシカルボキシ	0.01	LC-MS/MS	88	スルプロホス	0.01	GC-MS/MS
36	カズサホス	0.01	GC-MS/MS	89	ターバシル	0.01	LC-MS/MS
37	カフェンストロール	0.01	LC-MS/MS	90	ダイアジノン	0.01	GC-MS/MS
38	カルフェントラゾンエチル	0.01	GC-MS/MS	91	ダイアレート	0.01	LC-MS/MS
39	カルプロバミド	0.01	LC-MS/MS	92	チアクロプリド	0.01	LC-MS/MS
40	キナルホス	0.01	GC-MS/MS	93	チアベンダゾール	0.01	LC-MS/MS
41	キノキシフェン	0.01	GC-MS/MS	94	チアメトキサム	0.01	LC-MS/MS
42	キノクラミン	0.01	GC-MS/MS	95	チオベンカルブ	0.01	GC-MS/MS
43	クミルロン	0.01	LC-MS/MS	96	チフルザミド	0.01	GC-MS/MS
44	クレソキシムメチル	0.01	LC-MS/MS	97	デスメディファム	0.01	LC-MS/MS
45	クロチアニジン	0.01	LC-MS/MS	98	テトラコナゾール	0.01	LC-MS/MS
46	クロマゾン	0.01	GC-MS/MS	99	テトラジホン	0.01	GC-MS/MS
47	クロマフェノジド	0.01	LC-MS/MS	100	テニルクロール	0.01	GC-MS/MS
48	クロメブロップ	0.01	LC-MS/MS	101	テブコナゾール	0.01	GC-MS/MS
49	クロリダゾン	0.01	LC-MS/MS	102	テブチウロン	0.01	LC-MS/MS
50	クロルタールジメチル	0.01	GC-MS/MS	103	テブフェノジド	0.01	LC-MS/MS
51	クロルピリホス	0.01	GC-MS/MS	104	テブフェンピラド	0.01	GC-MS/MS
52	クロルピリホスメチル	0.01	GC-MS/MS	105	テフルトリン	0.01	GC-MS/MS
53	クロルフェナピル	0.01	LC-MS/MS	106	デルタメトリン及びトラロメトリン	0.01	GC-MS/MS

(単位：ppm)

測定項目	定量下限	試験法	測定項目	定量下限	試験法		
107	テルブトリン	0.01	LC-MS/MS	160	ブプロフェジン	0.01	GC-MS/MS
108	トリアジメノール	0.01	GC-MS/MS	161	フラムプロップメチル	0.01	GC-MS/MS
109	トリアジメホン	0.01	GC-MS/MS	162	フルアクリピリム	0.01	GC-MS/MS
110	トリアレート	0.01	GC-MS/MS	163	フルキンコナゾール	0.01	GC-MS/MS
111	トリシクラゾール	0.01	GC-MS/MS	164	フルジオキシニル	0.01	LC-MS/MS
112	トリブホス	0.01	GC-MS/MS	165	フルシトリネート	0.01	GC-MS/MS
113	トリフルミゾール	0.01	LC-MS/MS	166	フルシラゾール	0.01	GC-MS/MS
114	トリフルムロン	0.01	LC-MS/MS	167	フルトラニル	0.01	GC-MS/MS
115	トリフルラリン	0.01	GC-MS/MS	168	フルバリネート	0.01	GC-MS/MS
116	トリフロキシストロビン	0.01	GC-MS/MS	169	フルフェノクスロン	0.01	LC-MS/MS
117	トルクロホスメチル	0.01	GC-MS/MS	170	フルミオキサジン	0.01	GC-MS/MS
118	トルフェンピラド	0.01	GC-MS/MS	171	プロシミドン	0.01	GC-MS/MS
119	ナプロパミド	0.01	GC-MS/MS	172	プロチオホス	0.01	GC-MS/MS
120	ニトターールイソプロピル	0.01	GC-MS/MS	173	プロパジン	0.01	LC-MS/MS
121	ノバルロン	0.01	LC-MS/MS	174	プロピコナゾール	0.01	GC-MS/MS
122	バクロブトラゾール	0.01	GC-MS/MS	175	プロピザミド	0.01	GC-MS/MS
123	バラチオン	0.01	GC-MS/MS	176	プロフェノホス	0.01	GC-MS/MS
124	バラチオンメチル	0.01	GC-MS/MS	177	プロマシル	0.01	GC-MS/MS
125	ハルフェンプロックス	0.01	GC-MS/MS	178	プロメトリン	0.01	GC-MS/MS
126	ビテルタノール	0.01	GC-MS/MS	179	プロモプロピレート	0.01	GC-MS/MS
127	ビフェントリン	0.01	GC-MS/MS	180	プロモホス	0.01	GC-MS/MS
128	ピラクロストロビン	0.01	LC-MS/MS	181	ヘキサコナゾール	0.01	LC-MS/MS
129	ピラクロホス	0.01	GC-MS/MS	182	ヘキサジノン	0.01	GC-MS/MS
130	ピラゾリネート	0.01	LC-MS/MS	183	ヘキサフルムロン	0.01	LC-MS/MS
131	ピラフルフェンエチル	0.01	GC-MS/MS	184	ヘキシチアゾクス	0.01	LC-MS/MS
132	ピリダフェンチオン	0.01	GC-MS/MS	185	ベノキサコール	0.01	GC-MS/MS
133	ピリダベン	0.01	GC-MS/MS	186	ペルメトリン	0.01	GC-MS/MS
134	ピリフタリド	0.01	LC-MS/MS	187	ペンコナゾール	0.01	LC-MS/MS
135	ピリブチカルブ	0.01	LC-MS/MS	188	ベンゾフェナップ	0.01	LC-MS/MS
136	ピリプロキシフェン	0.01	GC-MS/MS	189	ベンダイオカルブ	0.01	LC-MS/MS
137	ピリミカーブ	0.01	LC-MS/MS	190	ペンディメタリン	0.01	GC-MS/MS
138	ピリミノバックメチル	0.01	LC-MS/MS	191	ペンフルラリン	0.01	GC-MS/MS
139	ピリミホスメチル	0.01	GC-MS/MS	192	ホサロン	0.01	GC-MS/MS
140	ピリメタニル	0.01	LC-MS/MS	193	ボスカリド	0.01	LC-MS/MS
141	ピロキロン	0.01	LC-MS/MS	194	ホスチアゼート	0.01	GC-MS/MS
142	ピンクログリン	0.01	GC-MS/MS	195	ホスメット	0.01	GC-MS/MS
143	フィプロニル	0.01	GC-MS/MS	196	ホレート	0.01	LC-MS/MS
144	フェナリモル	0.01	GC-MS/MS	197	マラチオン	0.01	GC-MS/MS
145	フェニトロチオン	0.01	GC-MS/MS	198	ミクロブタニル	0.01	GC-MS/MS
146	フェノキシカルブ	0.01	LC-MS/MS	199	メタベンズチアズロン	0.01	LC-MS/MS
147	フェノチオカルブ	0.01	GC-MS/MS	200	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	GC-MS/MS
148	フェンスルホチオン	0.01	GC-MS/MS	201	メチダチオン	0.01	GC-MS/MS
149	フェントエート	0.01	GC-MS/MS	202	メトキシクロール	0.01	GC-MS/MS
150	フェンバレレート	0.01	GC-MS/MS	203	メトキシフェノジド	0.01	LC-MS/MS
151	フェンピロキシメート	0.01	LC-MS/MS	204	メトミノストロビン	0.01	GC-MS/MS
152	フェンブコナゾール	0.01	GC-MS/MS	205	メトラクロール	0.01	GC-MS/MS
153	フェンプロバトリン	0.01	LC-MS/MS	206	メフェナセット	0.01	GC-MS/MS
154	フェンプロピモルフ	0.01	GC-MS/MS	207	メブロニル	0.01	GC-MS/MS
155	フェンメディファム	0.01	LC-MS/MS	208	モノリニューロン	0.01	LC-MS/MS
156	ブタクロール	0.01	LC-MS/MS	209	リニューロン	0.01	LC-MS/MS
157	ブタフェナシル	0.01	LC-MS/MS	210	ルフエヌロン	0.01	LC-MS/MS
158	ブタミホス	0.01	LC-MS/MS	211	レナシル	0.01	GC-MS/MS
159	ブピリメート	0.01	GC-MS/MS				

編集後記

令和元年度分の業務概要をお届けします。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、人と人の接触を減らすための外出自粛や各種イベントの中止など社会的に大きな混乱が生じています。当所でも在宅勤務を行ったり、対策担当部署の応援をしたりと人員が少ない状態になることも多く、検査などの業務を当初の予定どおり行うことが難しい状況も発生しています。HACCP 導入支援についても平成29年度から段階的に進めてきましたが、人を集めるのが難しい状況の中で、今後の進め方を模索している状況です。業務概要の作成についても若干作業が遅れてしまいましたが、やっとお届けすることが出来ました。

世の中に様々な悪影響を及ぼしている新型コロナウイルスですが、食品衛生行政を担う私たちにとって、不幸中の幸いは、手洗いや従業員の健康管理の重要性について認識が広まったことと思います。新型コロナウイルス感染症の終息後も手洗いや健康管理がすべての食品取扱者の習慣として定着してくれることを切に願っています。

さて、当所は鮮魚市場と青果市場にそれぞれ検査室を設け、監視と検査をどちらもやるという現地密着完結型の組織が特徴です。平成29年度から、HACCP 導入支援を積極的に働きかけていることで、市場関係者とのコミュニケーションが格段に充実したと感じています。さらに今後は、本格的な自主管理、未然防止の取組みが進むことで、監視や検査の在り方も変えていく工夫が必要だと感じたところです。

業務概要の作成は1年の振り返りであり、今後の方向性を考える場としたいと考えております。それには、皆様方の異なる視点が重要なヒントとなります。皆様方におかれましては、本書を一読いただきました感想、その他別添のアンケートにご記入いただければ幸いです。

令和2年11月

食品衛生検査所業務概要 ワーキンググループ一同

福岡市食品衛生検査所への交通アクセス

■鮮魚市場係

＜市営地下鉄ご利用の場合＞
赤坂駅下車 徒歩10分

＜西鉄バスご利用の場合＞
長浜二丁目バス停下車 徒歩5分

■青果市場係

＜西鉄バスご利用の場合＞

天神方面から：
ベジフルスタジアム前バス停下車 徒歩1分

博多・千早駅方面から：
福岡市総合体育館バス停下車 徒歩10分



令和2年11月発行

編集・発行

福岡市食品衛生検査所
Fukuoka City Food Inspection Station

鮮魚市場係
〒 810-0072
福岡市中央区長浜3丁目11-3 市場会館12F

TEL (092) 711-6440
FAX (092) 711-6439
shokuhin.PHWB@city.fukuoka.lg.jp

青果市場係
〒 813-0019
福岡市東区みなと香椎3丁目1-1 市場会館2F

TEL (092) 682-3922
FAX (092) 682-6144

